

2011年 風来坊 Country Walk

里歩き・山歩き & 山口・美祢・美祢の四季 2011

水行末 雲来末 風来末

Mutsu Nakanishi Home Page より
<http://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

2012. 1 15.

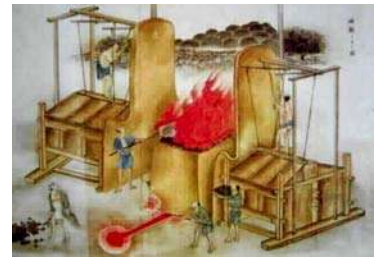


By Mutsuo Nakanishi

水行末 雲来末 風来末 和鉄の道 風来坊

鉄の「まばゆい輝き・閃光」と「黒光り・肌光」

日本には「たたら製鉄」という鉄鉱石や砂鉄の塊から、「硬くてねばい鋼」を直接作り出す日本古来の製鉄法がある。ヒッタイトが人工鉄を発明した当初の姿を現代まで残し、現在の製鉄法にも負けない高品質の鋼を作り出す技術に高め、維持している日本独自の製鉄法である。



日本に「鉄」が伝来して、この「たたら製鉄」が行われるまで、約800年の長きにわたってたたら製鉄法の摸索が続き、その技術をさらに磨き高めながら1500年続いてきた日本独自の製鉄技術。「鉄は国家なり」「鉄は産業の米」と「鉄」の力が強調されるが、一方で文化を育み、そこに住む人たちの生活を豊かにし、現在に至る日本を作ってきた。



そんな今、急速な社会変革の中で この製鉄にともなう数々のドラマが忘れ去られ、日本各地の「たたら製鉄」遺跡もろとも消え去ろうとしている。

人里は慣れた里山の谷筋や川筋・海岸など製鉄関連遺跡周辺には、生産の痕跡とともに、それに携わった人々の賑わいや数々のドラマが、周りの美しい景色とともに埋もれ残り、日本の原風景といわれるすばらしい景色にも出会えます。

また、製鉄関連遺跡は日本各地 それこそどこにでもあり、好奇心を持って訪れば、すばらしい景色とともに数々の出会いがあるのも楽しみ。

そんな日本で繰り広げられたドラマ そして その痕跡の風景を少しでも残しておきたいと「和鉄の道・Iron Road」として日本各地を Country Walk しつつ集めています。

和鉄の道・Iron Road
 鐵文人は山を望むすばらしい景色の森に村を作った
 製鉄華団の住む街道・谷筋・浜にも素晴らしいドラマと四季がある

水行末・雲来末・風来末
 風来坊 Country Walk

Key Word
 ・たたら製鉄遺跡
 製鉄遺跡開拓地
 鉄のミュージメント
 鉄・鐵台の伝承地
 山・谷・街道・街・海岸



2011 風来坊 Country Walk もくじ

山歩き・里歩き & 山口・美祢 長門の四季

風来坊 Country Walk【10】 里歩き・山歩き 2011

- | | | |
|--|-----------------|--------------|
| 1. 早春の須磨アルプス 馬の背を久しぶりに歩きました
横尾から馬の背への谷筋 旧道直登ルートを見つけました | 2011.2.23. | 11walk01.pdf |
| 2. 2011.春 西神戸で春を探す 春を告げるカタクリ・雪割草・寒葵・土筆
みんながみんな「東北頑張れ」「日本頑張れ」と | 2011.3.28. | 11walk02.pdf |
| 3. 2011 年春の訪れを告げるカタクリの花古代鉄関連地の山蔭に咲く花を今年も訪ねました
1. 西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.
2. 西神戸 神出 雌岡山のカタクリ 2011.4.11. | | 11walk03.pdf |
| 4. 春の六甲高山植物園新緑の森をめくりながら花の説明に耳を傾ける | 2011.4.29. | 11walk04.pdf |
| 5. 春から初夏へ 里山の花を訪ねる Walk
1. 六甲森林植物園 石楠花 新緑の六甲森林植物園の石楠花谷 2011.5.8.
2. 丹波・兵庫氷上盆地 田植えが始まった郷・レンゲ畑・九尺の藤 2011.5.14.
3. 梅雨の晴れ間 山口県美祢カルスト台地 2011.5.24.-5.26.
美祢の山郷・水が張られた棚田・麦秋・バラの花 | | 11walk05.pdf |
| 6. ひまわりの夏 2011 西播磨佐用 南光町林崎のひまわり | 2011.7.23. | 11walk06.pdf |
| 7. 京都に夏を告げる祇園祭 2011
1. 祇園祭宵山 提灯に灯がとまり祇園囃子が響く鉦町 walk
2. 山鉦巡行 巡行のハイライト 鉦の辻回し | 2011.7.16.&7.17 | 11walk07.pdf |
| 8. 神戸の夏を歩く 2011 これからが夏本番
1. 六甲高山植物園 夏の高山植物 2011.6.15.
2. 布引の滝 2011.7.6.
3. 高校野球 地区大会を観戦 2011.7.12.& 7.15.
4. 梅雨が明けた入道雲 須磨で 2011.7.14. | | 11walk08.pdf |
| 9. 2011 年夏 佐川美術館「セガンティーニ」展と湖面に広がる蓮の花
琵琶湖 守山佐川美術館 & 草津水生植物公園 蓮の群生地
1. アルプスの画家 セガンティーニ展 佐川美術館
- 光と山 - GiovanniSegantini-Light and Mountains-
2. 佐川美術館 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館
3. 湖面に広がる満開の蓮の花 (草津水生植物公園 蓮群生地)
参考 2008 年の夏 スイスの旅より
セガンティーニが住んだサンモリッツ周辺 & ツェルマツト周辺の山郷の風景 | 2011.8.11 | 11walk09.pdf |
| 10. 真っ青な空にもくもくと入道雲 神戸の夏 2011
西神戸 鶴越の奥にそびえる菊水山からの大阪湾の眺望 | 2011.8.8. | 11walk10.pdf |
| 11. 播磨多可町に秋を訪ねる 彼岸花の里&播磨の最高峰千ヶ峰登山
1. 彼岸花の里 多可町 2. 三谷登山口より千ヶ峰に登る | 2011.9.27. | 11walk11.pdf |
| 12. 東播磨 加古川西岸の丘陵地 加古川市志方に秋を訪ねる【2】
播磨の小さい秋 コスモスの郷 加古川市志方町で | 2011.10.17. | 11walk12.pdf |
| 13. 2011 年秋 紅葉 walk 紅葉の名所 京都西山 長岡京市 粟生の光明寺 | | 11walk13.pdf |

山口・美祢・長門の四季【9】 2011

- | | | |
|--|------------------|-------------|
| 1. 初窯・本焚きの見学記
山口市吉敷 萩焼陶芸家 田中講平さん自作の登り窯
田中講平さん自作の萩焼登り窯の初窯・本焚きの日 | 2011.1.15. | 9mine01.pdf |
| 2. 梅雨の晴れ間 山口県美祢カルスト台地で
美祢の山郷・水が張られた棚田・麦秋・バラの花 | 2011.5.24.-5.26. | 9mine02.pdf |

1.

早春の須磨アルプス 馬の背を久しぶりに歩きました

横尾から馬の背への谷筋 旧道直登ルートを見つけました 2011.2.23.



ポカポカ陽気に誘われて、自宅の南に広がる西六甲をぶらぶら歩きを楽しんでいる。

山裾から 30分も歩けば、山の稜線に出られ、春になると梅林に梅が咲き、野鳥がさえずり きらきらと輝く明石海峡を眺めながらの山上散歩。

また、須磨アルプスと呼ばれる横尾山と東山の縦走路は「馬の背」と言われる荒々しい岩稜の縦走路で、高山に登った気分が味わえる。

春の訪れを一番先に見届けられる散歩コース。

この辺りは 六甲山脈が明石海峡に落ちる花崗岩の険しい山が壁となる 摂津/播磨の国境

山は低いのですが、海岸まで急峻な山が続き、摂津/播磨の難所で かつては陸路を海岸沿いを通るのは難しく、山に入ってこの急峻な山を越える道が幾つもあったと聞く。



「須磨の関」があり、「源平一の谷」「鶴越」と歴史の舞台になった古道が幾つもあった。

道が改良されたとはいえ、須磨海岸では急峻な山と海との狭い間を国道2号線・JR山陽線・山陽電車がすり抜ける。逆に眼前に明石海峡と淡路島が一望の景色の良いところでもある。

この急峻な山並の象徴が 須磨アルプス馬の背の岩稜の縦走路。毎日眺める山並みの中に険しい岩稜が潜んでいるとは思えないのですが…

摂津/播磨の国境の壁 須磨海岸を斜めに北東から南西に走る須磨アルプス 東山と横尾山を結ぶ痩せ尾根 急峻な岩稜の縦走路が続く「馬の背」毎日眺めるこのなだらかな緑の小さな山が急峻な岩稜を連寝しているなどとも思えない。

この馬の背の岩壁を北から南へ越えて須磨海岸へ出る道がつい最近まであったと聞くのですが、もうよく判らない。

確かに馬の背の縦走路を歩くと横尾山の急峻な崖道を下りきった狭い尾根筋 南北両側がキツイ谷に切れ落ちた鞍部には谷越え(乗越)で南の須磨海岸に抜ける標識があるのですが、北側は急峻な岩が谷へ切れ落ちている鎖場でよく判らない。北側から谷を登ってくる道を探そうとこの北山麓を巻いて東西に延びる散策路「横尾道」を歩いて 山への枝道を見つけては 入ってゆくのですが、この馬の背乗越の直登ルートを見つけれず。



つい先日 東山への登り口の少し西 雑木が続くずくずくの谷川にずっと奥へ踏み跡がついているのを見つけました。散策路と東山ハイキング道をつなぐ枝道がこの谷川から横に抜けてゆくので、見過ごしていた踏み跡。少し奥へ入ると真直ぐ谷をつめてゆく旧道が残っていました。

靴を履き替えて 2月23日 この道にはいりました。馬の背へ出れなくても 谷の中から馬の背の岩稜を見渡せるだろう…と。ちょろちょろとザレの中を水が流れる谷川の中 狭い一本の谷筋で 間違ふことはない。急峻な岩尾根になれば 引き返そうと。谷筋に入って 視界の開けない中 雑木とゴロゴロ岩の間を 15分ほど登ると雑木の上に岩山が飛び出しているのが見え、道はこの岩山へ。この岩山の上方で、不意に横尾山の急峻な鉄梯子を上っている人たちがすぐそこに見える。岩の向こう側で人の話声。もうそこが馬の背の縦走路。ここからが一番の難所 一枚岩に鎖が取り付けられ、真直ぐ下に切れ落ちた岩山を鎖にしがみつきながらトラバースすると縦走路。すぐ下に乗越の道標が見える。間違いなく この道が昔からの馬の背乗越の旧道。



須磨アルプス 馬の背乗越谷筋ルートの旧道で 2011.2.23.

縦走路から登ってきた谷側を見ると鎖場の向こうは切れ落ちた谷登ってきたみちは見えず。

とてもとても 知らないと ここに入ってゆくとは思わない。

(後日談ですが、この須磨アルプスを歩きなれたハイカーは この乗越道をやはりよく知っていて、マムシが多いので 注意と) ここからは 久しぶりに 馬の背の景観を楽しみながらの痩せ尾根縦走路を東山へ。



須磨アルプス 馬の背 六甲全山縦走路で 2011. 2. 23.

やっと見つけた馬の背乗越の縦走路

右手に須磨の海 左手に 須磨の団地群の向こうに 播州から裏六甲の山々 足元には荒々しい花崗岩むき出しの岩稜
 ぶらぶらと春の須磨 山上散歩を 楽しみながら 東山から 横尾・妙法寺駅へ降りてきました。

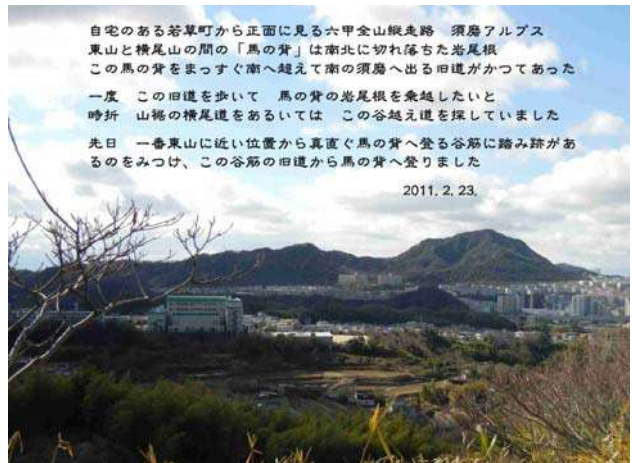
2011.3 月 春はもうすぐそこまで スライド集

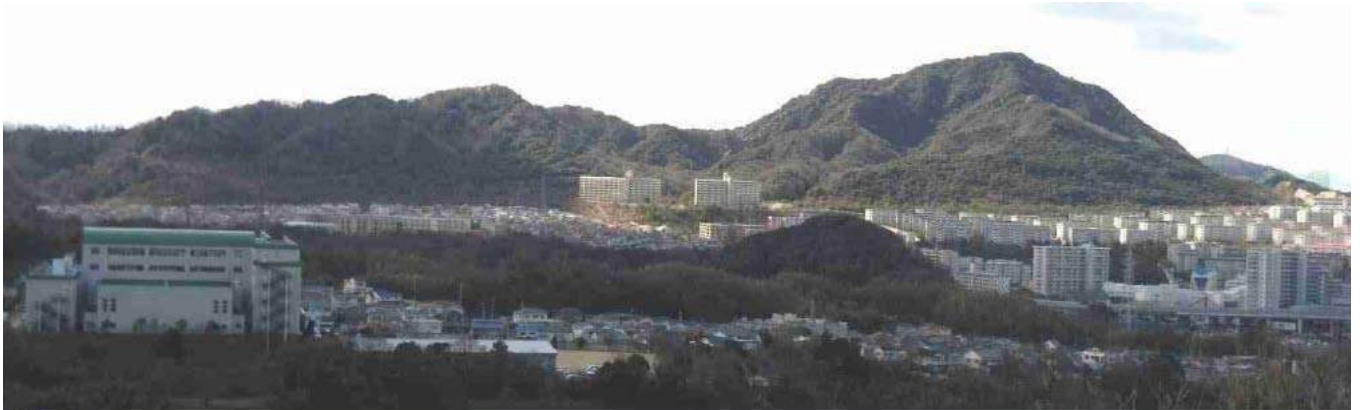
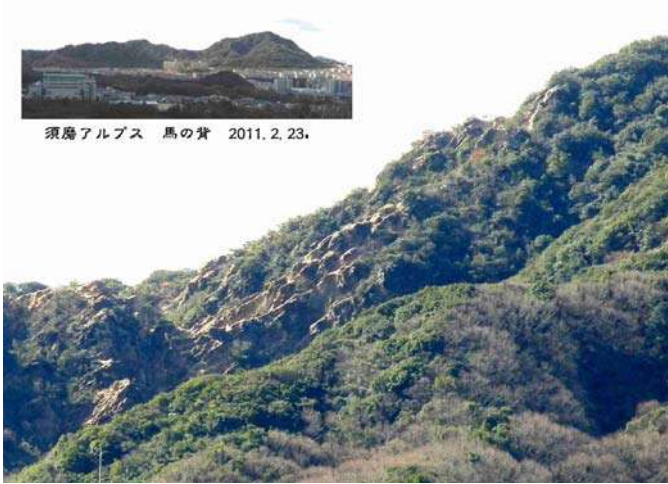


思い入れ一杯の須磨アルプス
 花崗岩むき出しの痩せ尾根歩きですが、「須磨の春」
 今日から 神戸春の風物詩 いかご漁も解禁

スライド動画にたスライド集
 神戸 春の便り ご覧ください

2011. 3. 3. by Mutsu Nakanishi







2020年10月17日撮影 栗原市 栗原市 栗原市



栗原市 栗原市 栗原市
栗原市 栗原市 栗原市



谷の上 谷の上 谷の上



谷の両側の表層が見えてくるが 和製わら
ず統界の閉じ込めの中



谷を横切ると、突如、先見山を下る神尾山の空山脚見山がすぐそばに



栗原市 栗原市 栗原市



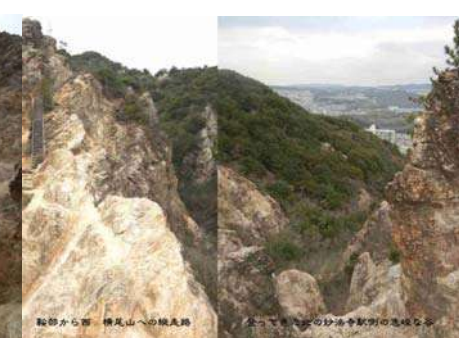
谷の奥には 洞窟群が隠れており、見上げる壁も洞窟群で覆われ
洞窟群に由来する 洞窟群が隠れており、見上げる壁も洞窟群で覆われ
洞窟群に由来する 洞窟群が隠れており、見上げる壁も洞窟群で覆われ



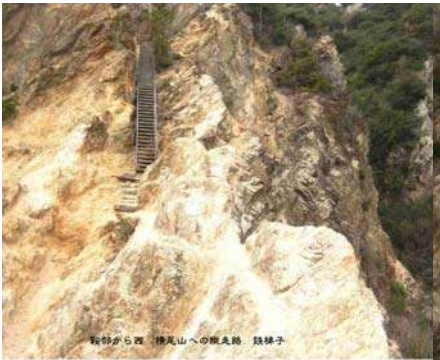
空山脚見山 栗原市 栗原市 栗原市
栗原市 栗原市 栗原市
栗原市 栗原市 栗原市



栗原市 栗原市 栗原市



栗原市 栗原市 栗原市



栗原市 栗原市 栗原市



栗原市 栗原市 栗原市



駒込路北側一登ってきた妙法寺駅前の景観なほ



北側一黒山より一黒の背の狭い段級別長崎方面へ



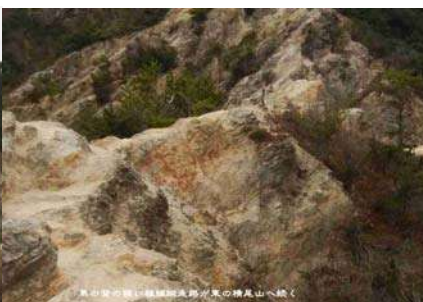
黒の背一南六面側が切れ落ちた狭い段級別長崎



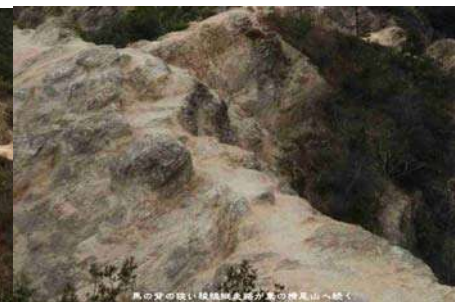
黒の背級別長崎より一北側から妙法寺駅 権尾団地



黒の背の狭い段級別長崎が黒の権尾山へ続く



黒の背の狭い段級別長崎が黒の権尾山へ続く



黒の背の狭い段級別長崎が黒の権尾山へ続く



黒の背を越すと駒込路はならかな溪木の中へ



駒込路の南側に須磨の海が見える



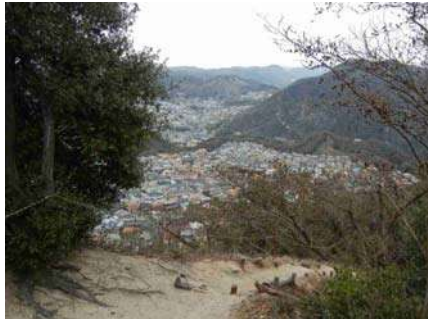
黒山山頂



山道には「柳色鳥」が飛び出し、餌をつつく。柳色な鳥ですが、砂あでなく、片両眼で柳葉に色定されているとか



東山から駒馬跡と別荘、一気に尾根道を妙法寺駅へ下る。正面に茶臼山



下り終えた東山堂り口は、鳥の姿への谷をつつたすく裏側。鳥の姿で遊びながら約1時間半ほどのハイキングでした



弥生3月 春がもうそこまで



〈2〉 写真アルバム 西神戸で春を探す 2011. 3月

春を告げる カタクリ・雪割草・寒葵・土筆 みんな 「東北頑張れ」「日本頑張れ」と

2・3月上旬の厳しい寒さがつづいて、春の花便りが遅れましたが、3月下旬 梅の花がさきだし、やっと春が感じられるようになりましたが、3月11日 未曾有の関東・東北大震災に原発事故。ほんとうに大変なことになりました
お見舞い申し上げます。

そんな厳しい春に 郷では 土筆がみんな顔を出し、山の北斜面で 枯れ落ち葉の中から清純な雪割草 枯葉をそっとどけると寒葵そして それらに囲まれて すくと立ち上がって 冷たい風に身を震わせる「カタクリの花」 みんな 「東北頑張れ」「日本頑張れ」と

例年の春とはちょっとちがった神戸からの2011年春の花便りです



かつて山野草の宝庫だと教えてもらった雌岡山の北斜面に咲く 左: カタクリ 中央: 雪割草 右: 寒葵



須磨 旗振山からみる須磨海岸 左: 東の神戸市街地 右: 春の日差しを受ける明石海峡



土筆の群生地 西神戸 性海寺集落の奥の谷間の田園地で 2011.3.29.

【春霞の中 ゆったりした時がながれる 春の明石海峡 2011.3.22.】



明石海峡 春の風物詩
↓
いかなご漁の船団がみえる

明石海峡の春 いかなご漁の船団も海峡から播磨灘に漁場を移し、春到来です 2011.3.22.

毎年 早春の西神戸の話題を独占する春の風物詩「明石海峡のいかなご漁といかなごの釘煮」。

今年は 関東・東北大震災と原発事故で それどころでなくなって……。気分もそぞろの中での釘煮づくり

いつの間にか いかなご漁は 大阪湾・明石海峡から播磨灘へ移って もう終わり。厳しい雰囲気の中での春到来です



須磨 旗振山 満開の梅林より 北側に広がる西神ニュータウン

背後に三角の形をした二つの山 雌岡山・雄岡山が浮かんでいる

西神戸・明石海峡の北 子午線上に美しい三角形状で東西に並んで立つ 信仰の山 雌岡山・雄岡山

この山が かつては山野草の宝庫 今 この山で消滅しそうな山野草の復活をすすめるひとたちがいる。

この山の北斜面で 春を告げる雪割草・カタクリの花に出会えました

【西神戸 神出雌岡山に咲く春の山野草 雪割草・寒葵・カタクリの花に出会えました 2011.3.29.】

つい最近 頂上に古代の鍛冶神 大己貴を祭る神出神社があり、鍛冶伝説を持つ神奈備山 雌岡山で 春になるとカタクリが咲き、かつて山野草の宝庫だったこの山の花を復活させようと

取り組んでいる人たちがいると知り、この春 何度か訪ねました。 氷河期の生き残りカタクリの花 冷たい風に顔を向け 身を震わせて立ち向かう姿が大好きな花

かつて この山には 春になると雪割草 カタクリなどの山野草が咲き乱れ、花が咲き出すとこの地の娘たちがこれらの花を見に山に入り、この山の社にお参りし、良縁を願ったという伝承が残っています。

カタクリの南限は兵庫県と聞きましたので、この地に咲くカタクリは南限の花か・・・。

もう カタクリの花が咲き始めたか? と訪ねた 3月27日 山の斜面一杯に咲く雪割草に囲まれて カタクリの花が一輪 咲いているのを見つけました。



雪割草の中に咲く「カタクリの花」一輪
西神戸 神出 雌岡山で 2011.3.28.



春到来を喜ぶ「雪割草」
2011.3.28. 西神戸 神出 雌岡山で





雌岡山の山の斜面に咲く雪割草 2011.3.22.

【西神戸 神出 雌岡山の草地で タンポポとホトケノザ 2011.3.28.】



西神戸 神出 雌岡山の山腹の草地に 春を告げる黄色いタンポポと赤紫の「ホトケノザ」が群生 2011.3.28.

【西神戸 性海寺集落の奥の山際の田圃で土筆の群生地を見つけ、土筆採り 2011.3.29.】



西神戸 性海寺集落の休耕田に群生して 田圃全体を赤紫色に染める「ホトケノザ」の群生 2011.3.29.

西神戸 ニュータウンの北西 性海寺集落へ入るところの田圃全体が赤紫色。 はじめ蓮華ではないかと思ったのですが、どうも感じが違う。神出の畑で 蓮華と見間違えて、畝一つがこんな感じになっていて、珍しくて、調べると春の七草のひとつである「ホトレンザ」とは異なる「ホトケノザ」というのだそう。 よく見るとやっぱりそれでした。

畑の畔や山裾の草原などで見る「ホトケノザ」がこんなに群生して畑一杯を埋め尽くしているのを見るのは初めて。

これも 春の情景のひとつか・・・

私はたべないのですが、「土筆」が大好きで目がないカミさん。

「性海寺の集落の奥の谷間の田圃で 両手の袋一杯採っている人にてあったよ」というと是非 連れてゆけという。 土筆は田圃の畔か道端と思っていましたが、土筆を取っていた人たちは畔と言うより、耕作を放棄した山際の田圃の中。

「ちょっと軟弱地でぬかるんでいる場所で長靴か 水はじく靴がええ」と靴を準備して出かけました。

「何ほども これから出てくる」という。雑草の中に 次々と 頭をもたげていました。こんなに沢山 群生しているのを見るのは 数年前 近江八幡の湖岸近くの畑以来。家内はビニール袋一杯採って 息子の家にも配って その晩 炒めた土筆をほおぼりながら「これで 春や」と。



土筆の群生地 西神戸 性海寺集落の奥の谷間の田圃地で 2011.3.29.

2011年4月 春の訪れを告げるカタクリの花

播磨の古代鉄の関連地に咲くカタクリの自生地を訪ねる

西播磨 佐用町弦谷 & 西神戸 神出 雌岡山



まだ冷たい風に立ち向かって山蔭で、身を震わせる愛らしいピンクの花

氷河期から日本列島の厳しい気候変動を耐え抜いたカタクリ

芽を出して花が咲くまで 約8年を地中で過ごす花でもある

この愛らしい花に魅せられ、毎年春になると 近くの自生地に「お〜い」と声をかけ、元気をもらうのですが、東日本大震災があって 今年は一としお 思いがつのる

毎年出かける西播磨佐用町弦谷のほか、すぐ近くの西神戸 古代伝承の郷「神出・雌岡山」に咲くカタクリにも出会えました 環境変化を逞しく生き抜く愛らしいカタクリの花をスライド動画にまとめました

みんなで声かけあって 支えあってゆきましょう!! 生きる元気を!!

東日本大震災・原発事故で被災されたみなさんに 支援の手を!!

1. 西播磨 千種川が流れ下る古代たたら郷
西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.



2. 明石の北子午線上にある古代伝説の山 雌岡山
西神戸 神出 雌岡山のカタクリ 2011.4.15.



西播磨 千種川が流れ下る古代たたらの郷

佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.

西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ [1]



西播磨 千種川が流れ下る古代たたらの郷 西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.
西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ [2]



西播磨 千種川が流れ下る古代たたら郷 西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.
西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ [3]



西播磨 千種川が流れ下る古代たたら郷 西播磨佐用町 東徳久 殿崎のカタクリ



西播磨 千種川が流れ下る古代たたらの郷 西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.

東徳久漆野 光福寺の糸桜と佐用大撫山 西播磨天文台



おまけ 我が家の庭も春の草花が満開です 2011. 4. 5.





雌岡山カタクリの栽培地

古代伝説の信仰の山「雌岡山」の山腹には かつて あちこちにカタクリが自生するカタクリの群生地。

春 山に花が咲くと 集落の娘たちは花を見にこの山に入り、山中にある神出の守り神 神出神社と良縁・安産の神 裸石・姫石の両神社に参詣したという。

絶滅が危惧されたこのカタクリの群生地を復活するため、神出の人たちによって 4・5年前から 山腹の斜面地を整備し、カタクリの移植・栽培がトライされてきた。

カタクリが花をつけるのには 8・9年かかり、この栽培地でカタクリの花が数多くみられるようになったのは ここ1・2年だという。

数多くのカタクリが他から移植されたためかどうかわからないが、他の群生地で見られる「葉に紫斑のあるカタクリ」と「斑のないカタクリ」の2種が混在しているようだ。

また 若いカタクリが多いためか、葉が小さく、色も薄い感じがする。

神出集落の人たちの大変な苦勞で 守り育てられてきた雌岡山のカタクリ。

このまま 順調に 春カタクリが咲き乱れる群生地復活が成功することを願う。





今年初めて、花をつけたのか?
小さな葉っぱが2枚、若いカタクリ
雌岡山のカタクリの花

まだ、若いカタクリが
スミシに隠れて咲いている。
まだ若い株が多い 2011.4.15.







みんなで声かけあって 支えあってゆきましょう!! 生きる元気を!!

東日本大震災・原発事故で被災されたみなさんに 支援の手を!!

新緑の森をめぐりながら花の説明に耳を傾ける



ヤマザクラが咲き 淡い新緑に包まれた森に春の高山植物が一杯 六甲高山植物園 2011. 4. 29.

「今 春の高山植物が美しい カタクリがまだ残り ヤマザクラが咲く中に水芭蕉・シラネアオイが咲いている」と聞いて、六甲高山植物園へ出かけました

毎年 ヒマラヤの青いケシやコマクサの咲くのを待って出かけるのですが、淡い緑に包まれた山腹や湿地に数多くの高山植物の群落。こんなに沢山 高山植物の群落あったかなあ・・・と。

自然の中に飛び込んでみる花も素晴らしいですが、造られた環境とはいえ、自然に配慮した広い山の山腹や湿地を専門の案内人と巡りながら数々の花を愛で、その説明に耳を傾ける。ゆったりとした気持ちのいい時間でした。

久しぶりに 湿地に咲く水芭蕉の群落や一度見たかったシラネアオイにもであえました。



シラネアオイ



キバナカタクリ



カタクリ



オオヤマザクラ



ガクシショウマ



水芭蕉



イワウチワ



ジャコウソウ



アカヤシオ



ヒマラヤシャクナゲ



エンレイソウ



イカリソウ



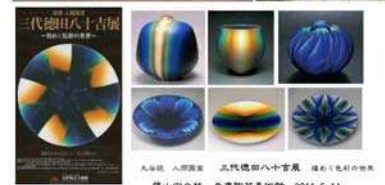
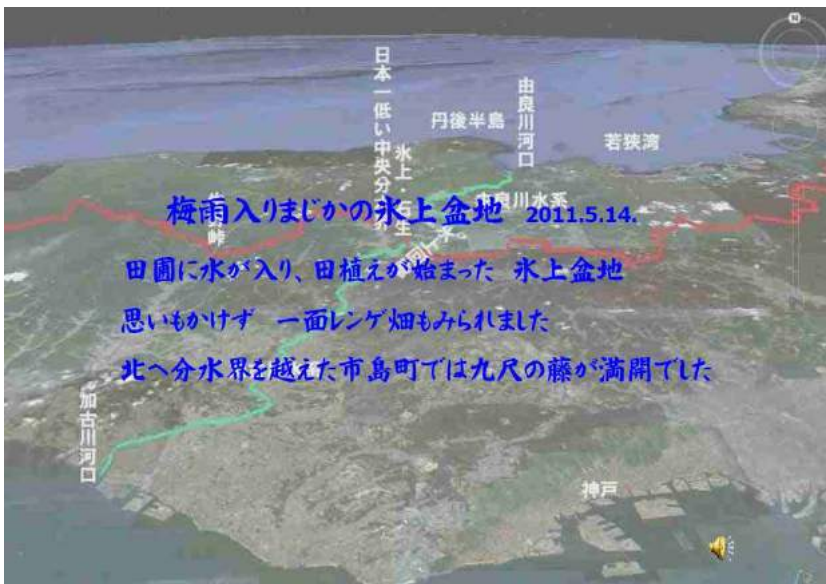
1. 六甲森林植物園 石楠花 新緑の六甲森林植物園の石楠花谷 2011.5.8.
2. 兵庫氷上盆地 田植えが始まった郷 2011.5.4.
久しぶりに田植えが進む丹波・氷上盆地を訪ねました レンゲ畑・田植え・九尺の藤
3. 山口県美祢カルスト台地 梅雨の晴れ間 2011.5.24.
梅雨入りの日 山口県美祢の山郷を訪ねました 水が張られた棚田・麦秋&バラの花

【写真アルバム】春から初夏へ 里山の花を訪ねる Walk

2011.6.5. by Mutsu Nakanishi

- | | | |
|-----------------------|---|----------------|
| 1. 六甲森林植物園 石楠花 | 新緑の六甲森林植物園の石楠花谷 | 2011.5.8. |
| 2. 兵庫氷上盆地 田植えが始まった郷 | 久しぶりに田植えが進む丹波・氷上盆地を訪ねました
レンゲ畑・田植え・九尺の藤 | 2011.5.14. |
| 3. 山口県美祢カルスト台地 梅雨の晴れ間 | 梅雨入りの日 山口県美祢の山郷を訪ねました
水が張られた棚田・麦秋&バラの花 | 2011.5.24.-26. |







日本で一番低い分水界 水別れ
水1町石と水別れ公園 2011.5.14



5月の連休が明け 田植えが始まった 丹波・米上の里で 2011.5.14



丹波の里 丹波町もみちから南へ流れる由良川水車村 丹波市丹波町神橋で 2011.5.14
丹波町もみちから南へ流れる由良川水車村 丹波町 水別れ公園
丹波町の里 丹波町もみちから南へ流れる由良川 丹波市丹波町神橋 神橋で 2011.5.14



丹波市丹波町 白雲寺 丸太橋 2011.5.14



丹波市丹波町 白雲寺 丸太橋 2011.5.14



加古川の土手によってきて、 まっすぐ加古川に沿って進め 水別れ別境を下る

5月24日 西日本は梅雨入り
 ずっきりしない天候の中 5月24日-26日 駆け足で山口へ
 春から初夏への郷の光景が新鮮 また バラが素晴らしい時でした

山口市 鳴滝ブリュワリーから山口の山並み 2011.5.24.



美祿/山口の峠道で 2011.5.24



美祿山の峠より 山口市吉敷の郷 2011.5.24



美祿 秋吉台 カルスト道路で 2011.6.26.



山口市吉敷の郷 2011.5.24



美祿山の峠より 山口市吉敷の郷 2011.5.24



美祿 秋宮台 カルスト環路で 2011. 5. 26.



カルスト自地田園では 今歳の収穫と田植えが同時進行
山口県美祿 2011. 5. 26.



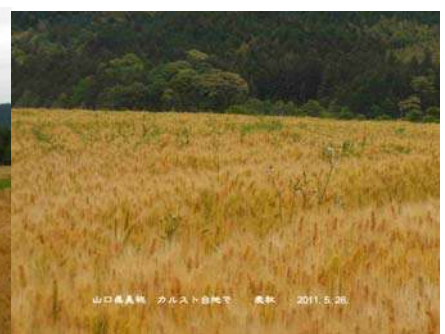
カルスト自地田園では 今歳の収穫と田植えが同時進行
山口県美祿 2011. 5. 26.



山口県美祿 カルスト自地で 2011. 5. 26.



山口県美祿 カルスト自地で 農秋 2011. 5. 26.



山口県美祿 カルスト自地で 農秋 2011. 5. 26.



山口県美祿 カルスト自地で こんな光景も 2011. 5. 26.



お向かい馬田さんの庭 バラと春の花満開でした 2011. 5. 26.



お向かい馬田さんの庭 バラと春の花満開でした 2011. 5. 26.



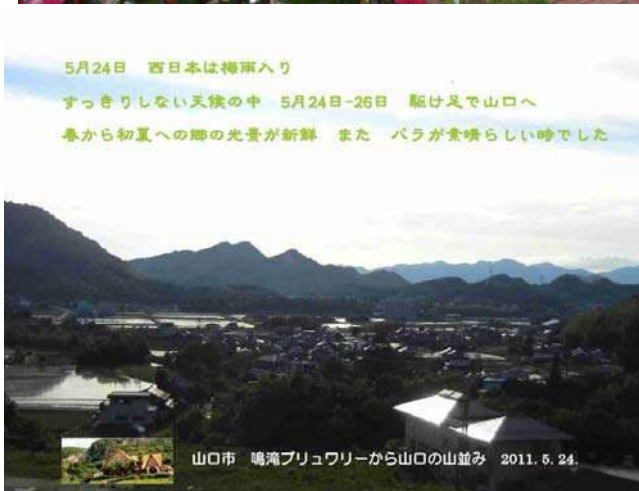
山陽自動車道 福山SA ローズガーデンで 2011. 5. 26.



お向かい馬田さんの庭 バラと春の花満開でした 2011. 5. 26.



山陽自動車道 福山SA ローズガーデンで 2011. 5. 26.



5月24日 西日本は梅雨入り

すっかりしない天候の中 5月24日-26日 駆け足で山口へ

春から初夏への郷の光景が新鮮 また バラが愛噴らしい時でした

山口市 鳴滝ブリュワリーから山口の山並み 2011. 5. 24.



山陽自動車道 福山SA ローズガーデンで 2011. 5. 26.



佐用町旧南光町林崎の千種川東岸に広がるひまわり畑 北側より 2011. 7. 23.

「ひまわりの夏 暑中お見舞い この厚い夏を元気に乗り切りましょう」

やっと蝉の声もきかれるようになり また、暑いひまわりの夏がやってきました。

毎年 梅雨が明け、猛暑の夏の便りが次々と舞い込むようになると、例年むひまわりの季節。今年も早く梅雨が明けましたが、私の家のひまわりもまだこれからだし、様子を見に行った小野市ひまわりの丘も咲くのはずっと遅れそう。

今年は草花の開花異常がでたり、蝉の泣き出すのが遅いなど異常気象の影響が報じられ、ひまわりにも・・・と心配になる。

毎年 元気な姿を見に出掛ける奥播磨佐用町南光町のひまわりが心配でしたが、台風が過ぎ



て、真夏の太陽が戻ってくると一機に「ひまわりの夏」到来。 南光町のひまわりも元気に花を咲かせているとの便りが届く。

兵庫県の西端に位置する佐用町は旧佐用町・南光町・三日月町が合併して出来た奥播磨の山間の街。

佐用町は神戸からは原付を走らせて約3時間約100kmの距離であるが、いつも楽しみな通いなれた道筋である。

北に中国山地の山並みを眺めながら 播磨の田園地帯の加古川・市川・夢前川・揖保川を渡り、そして中国山地の山裾を山崎断層の中に点在する山郷の風景を楽しみながらこの地域の中心地 宍粟市(山崎)へ。 そこからはさらに中国山地の山中に分け入って切窓峠を越えると佐用町。

北の中国山地から流れ出た佐用川・千種川・志文川など幾つもの川が合流して千種川となって南へ下ってゆく山間の小さな盆地が連なる町で、周辺の谷筋は古代のたたら製鉄地帯「千種鉄・宍粟鉄」の中心地のひとつで何度も訪ねた地である。

また、急峻な谷を流れ下ってきたそれぞれの川はこの地で少し緩やかになり、川筋の両側には河岸段丘が広がり、山間の集落が点在し、四季の移ろいが見られるのどかな山郷である。

南光町のひまわりは旧佐用町がある谷より一つ東の谷筋南光町徳久地区の集落ごとに休耕田を利用して、毎年少しづつ咲く時期をずらせて、作られ、谷筋の川岸から山裾までの丘全体を黄色一色にする。

照りつける太陽に向いて元気なひまわりが立ち並ぶ夏のひまわりの名所で開花時期にあわせ、姫新線播磨徳佐駅から臨時のバスが運行される。

今年もこの南光町の元気なひまわり「ひまわりの夏」の便りをみんなに伝えたくて、ぐずついた天気回復を待ちかねて、青空に入道雲が広がる7月23日の朝 原付を走らせて佐用町旧南光町のひまわりに出会いに行ってきました。

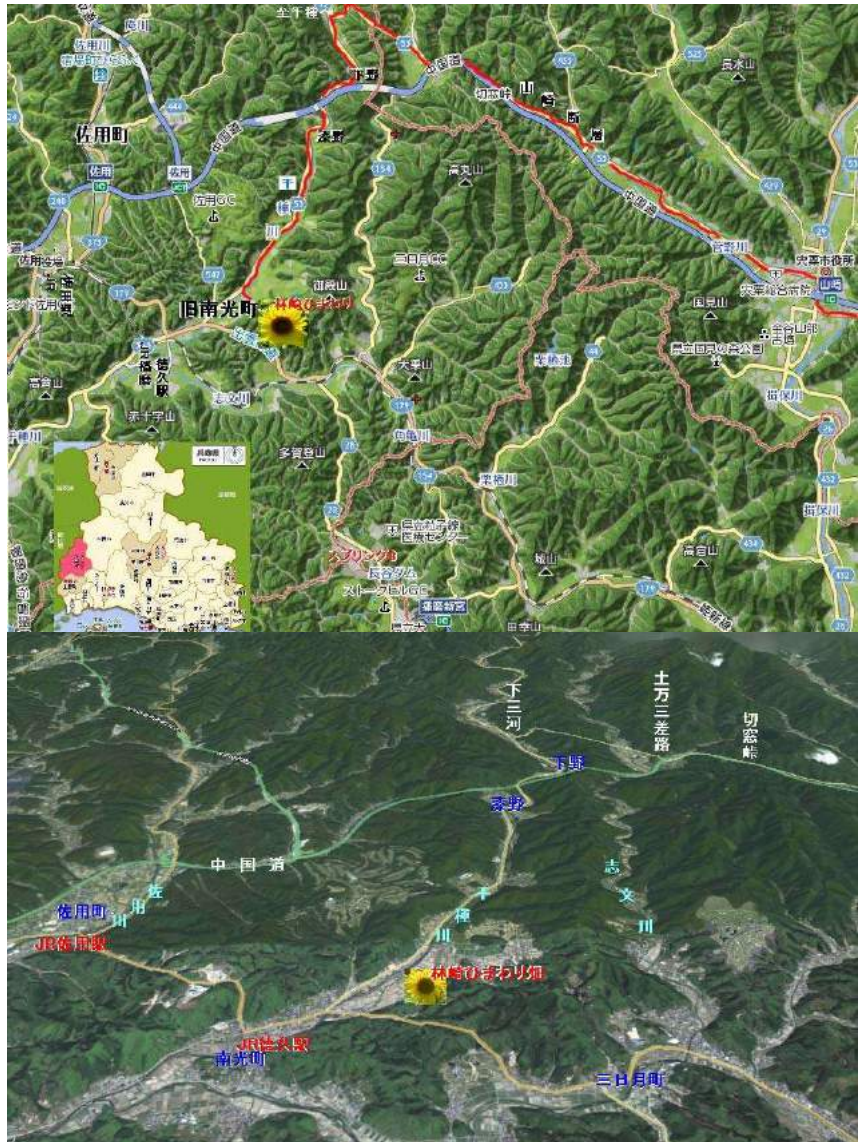
神戸から原付を走らせ、加古川土手に出ると真っ青な空の下に中国山地の山並みそしてモクモクと行き上がる入道雲 夏らしい景色。

今日はギラギラの太陽に一斉に元気な顔を向ける南光町のひまわりが見られそう。

また、加古川の土手から、加西市北条の新しい市街地をぬけ、中国道が通る福崎を経て、高速道と並走しながら、山崎断層の中を山崎へ。

山崎の街を流れる揖保川には 数多くの人たちが解禁になった若鮎釣りを楽しんでいる。これも真夏到来を告げる風物詩か????。

橋を渡って北側の中国道山崎 IC 横の高架をくぐって再度西へ曲がって 山



加古川の土手よりみる夏の空と中国山地の山並み



揖保川に架かる山崎大橋より鮎釣りをする人たち

崎の市街地を抜けるといよいよ中国山地の山の中へ分け入る。ここまで約2時間。前方の山中に分け入って 切窓峠を越えればもうすぐである。山崎の街から約30分ほど深い緑に包まれた山中を中国道と並走しながら切窓峠を越えて東から南光町に入る。千種への旧道との分岐土万三叉路を過ぎ、小さな峠を越えると北から南へ流れ下る千種川本流の岸下三河の集落のT字路にぶちあたる。この道を北へ行くと千種で、反対に南へ川に沿って下ると南光町から佐用町への道。いよいよ 川沿いに広がるひまわり畑の集落が点在する千種川本流の道に入る。



切窓峠



土万三差路



土万周辺を下ってゆく志文川



下三河のT字路を南へ下った 下野・漆野周辺を北から流れ下る千種川

南へ明るい谷筋の平坦な道を下り始めて、すぐ下野の集落。例年だと山裾を流れる千種川・そして赤い高速道路橋と岸を埋めるひまわりの美しい景色が飛び込んでくる場所なのですが、今年はひまわりの黄色い花が見られない。そして 漆野の集落に入っても同じで、ちょっと不安がよぎる。今年はひまわり不作なのか やっぱり開花がおくれているのか・・・と心配しながら、南光のひまわり畑の中心地 林崎地区へ急ぐ。狭い谷合いをぬけ、山裾に広い耕地地が広がる殿崎の集落に入ると前方の千種川の対岸の田園地の向こうに谷筋全体に広がる黄色のひまわり畑が見えてきた。

千種川 東岸の谷筋一杯を埋め尽くす林崎のひまわり畑、よかつた 林崎のひまわり畑は健在だと。



千種川を東岸に渡って 南側に山裾まで広がる林崎のひまわり畑を遠望 2011. 7. 23.

林崎のひまわり畑のある丘の真ん中には「若鮎ランド」という施設があり、野球場や広い大きな広場や駐車場があり、丘からは南北に延びる谷筋の全体が見渡せる場所にある町民憩いのセンターで、若鮎ランドの丘の両側に広がる休耕田全体に毎年この地の人たちによってひまわり畑が育てられる。

この土・日には「ひまわり祭り」が行われていて、駐車場には車が一杯。若鮎ランド前イベント広場にはテントの売店が立ち並び、人でごった返し、ひまわり畑の中にも黄色のひまわりの中に埋まっている多くの人が見える。

駐車場に原付を置いて、一年ぶり 南光のひまわりとの再会を楽しみました。





南光町林崎のひまわり

千種川の河岸段丘に咲くひまわり 2011.7.23.

















がんばろうニッポン!!
佐用町南光ひまわり祭り
 2011 7/16 (土) ~ 7/31 (日)

南光スポーツ公園周辺 イベント

- 07/16 「笑顔とあそぼう」
- 07/16 「笑顔と流れ星を拝よう」 旗争奪 (7/22まで) 笑顔とあそぼう (7/22まで)
- 07/20 「ひまわり畑、あそぼう」
- 07/31 「FESTIVAL」

07/16 花大祭 (南光スポーツ公園)
 ひまわり畑 (佐用町南光ひまわり畑)
 07/31 旗争奪 (南光スポーツ公園)

主催: 佐用町 協賛: 佐用町民会館

放送局	8:00	9:54	10:54	11:54	12:54	13:54
TV	10:07	10:56	11:54	12:55	13:53	14:54
FM	11:41	12:39	13:40	14:39	15:37	16:39
FM	12:43	13:38	14:38	15:38	16:37	17:37

©2011 佐用町 佐用町民会館 佐用町観光協会
 〒769-0001 佐用町南光 佐用町民会館 佐用町観光協会
 TEL: 0876-22-1111 FAX: 0876-22-1111
 WWW: WWW.SOYO-TOURISM.COM





南光町林崎 ひまわり祭りが行われている若あゆランド

京都 祇園祭 2011

2011.7.16. 夕 宵山 & 2011.7.17. 山鉾巡行



祇園祭 宵山



祇園祭 山鉾巡行 長刀鉾 辻回し

今年は祇園祭のハイライト宵山と山鉾巡行が土日になり、孫たちに祇園祭を見せたくて、16日・17日 京都へ出かけました。祇園祭には何度か出かけたことは出かけたことがあるのですが、最後に行ったのはもう10数年前。人波にもまれながらの鉾町巡りと山鉾巡行見物 数多くの人ごみにもう一度もまれてみたいと…。

山鉾の提灯に火が入り、「コンチキチン コンチキチン」の祇園囃子に「チマキ どうです」の子供たちの合唱が重なる中を身動きできぬ人波に身を任せながら鉾町を巡る。なんとも懐かしい心地よい響きと雑踏の中で味わう空気は昔のまま。そして 雑踏の鉾町を抜けた四辻でほっと一息。 遠く「コンチキチン」のお囃子が聞こえてくる。これが祇園祭やと。翌日の山鉾巡行もかつての記憶を頼りに 京都人 知る人ぞ知る特等席 広い市役所前河原町御池の交差点の角へ。孫を連れて人ごみをすり抜けながら前へ。

河原町を抜けてきて御池通りへ曲がってゆく山鉾の巡行 辻回しをたっぷり楽しみました。



2011年 祇園祭 宵山より 2011.7.16. 夕



2011年 祇園祭 山鉾巡行より 2011.7.17.

年々華やかになり、人波も多くなり、祭りを維持する鉾町も随分変化し、その負担も大変で、祭りそのものも変化してきたと聞きましたが、京都の夏を迎える風物詩 あまり観光ショウ化せず 鉾町が息づく姿がこのまま続いてほしいもの。孫たちも こんな大きな祭りを見るのは初めて。自分たちが想像していた祭りとは随分違っていたようですが、宵山の鉾町巡り そして翌日の山鉾巡行 鉾が四辻を直角に曲がる「辻回し」を楽しんで強い記憶になったようで、万々歳。京都はこの祇園祭が終わると熱い暑い夏の到来 見物の帰りも暑くて暑くて。 みんなでコンビニを見つけると一目散。ソフトクリームをほうばりながら下鴨の家に戻りました。

そんな 2011 年 京都の夏の訪れを告げる祇園祭
パチパチ撮ったデジカメ写真から、スライド動画と PDF 写真アルバムに整理しました。
京都の夏の風物詩 祇園祭の雰囲気を楽しんでいただければ

2011. 7. 20.
久しぶりに出かけた祇園祭写真を整理しつつ
By Mutsu Nakanishi



夏 2011 銀閣寺



夏 2011 神戸 須磨海岸



京都 祇園祭 宵山
2011.7.16.





2011 祇園祭 山鉾巡行

河原町御池 辻回し 2011.7.17.



嘉美川(かみがわ)の川舟(かふね) 西遊(さいゆう)の山鉾(やまぼこ)は
 御行(ごぎやう)の舟(ふね)と 御下(ごげ)の山鉾(やまぼこ)とを併(びら)せて一(ひと)塊(かた)に飾(かざ)る
 祇園祭(ぎおんまつり) 山鉾巡行(やまぼこめぐり)の光景(ひかりげい)です



2011年 河原町御池で山鉾祭・御幸祭の辻回しより 2011.7.17.



京都 祇園祭 巡行 長刀鉾 辻回し 2011.7.17.



祇園祭 山鉾巡行 長刀鉾 辻回し 2011.7.17.





長刀旗の旗には
天神山・五雲山・野崎山
三つの山が描く
その後には
全部で2基の山車行列

京都 祇園祭 巡行 天神山 2011.7.17.



京都 祇園祭 巡行 天神山 2011.7.17.

天神山 2011.7.17.

新町餅が河原町御所の辻に入ってきた



京都 祇園祭 御谷録 辻回し 2011.7.17.

京都 祇園祭 巡行 御谷録 辻回し 2011.7.17.



京都 祇園祭 巡行 御谷録 辻回し 2011.7.17.



河原町御池
團谷鉾の止廻し
祇園祭 山鉾巡行
2011.7.17.



祇園祭 鉾巡行 止廻し 2011.7.17.



祇園祭 山鉾巡行が終わって
京都にも 本格的な夏到来
2011.7.17.



神戸の夏を歩く これからが本番の夏です

1. 夏の高山植物 六甲森林植物園で 2011.6.15.

毎年 6 月 紫陽花がピークを過ぎると六甲高山植物園には数多くの夏の高山植物が咲き始める。足が弱ってきて、花の山旅もだんだん億劫になってきて、この時期 六甲高山植物園を訪れるのが楽しみにしている。4 月訪れた時に「異常気象で今年は山の草花に異変が起きてい、今年は山野草の裏年だ」と聞いて、6 月の高山植物はどうだろうか…と。「今年は 幻のヒマラヤの青いケシはだめだけれども、コマクサやエーデルワイス咲いているよ」と聞いて 6 月 15 日に出かけました。

今年はヒマラヤの青いケシは影も形もなし。ちょっと出遅れてクリンソウも終わっていましたが、多くの高山植物に今年も出会えました。どちらかというと去年よりはやっぱり花が少なかったのは 訪れた時期のせいかな 異常気象・裏年のためかはよく判りませんが…

今年は昨年よりも大峰の「オオヤマレンゲ」がたくさん咲いていたのと昨年は翌見れなかった「ヒメユリ」がきれいな花を咲かせていました。また、今年はダメだろうと思っていた コマクサ ウスユキソウの綺麗な姿も見られ、ラッキーでした。



オニユリ



ニッコウキツゲ



ヒメサユリ



アヤメ



コマクサ



ウスユキソウ

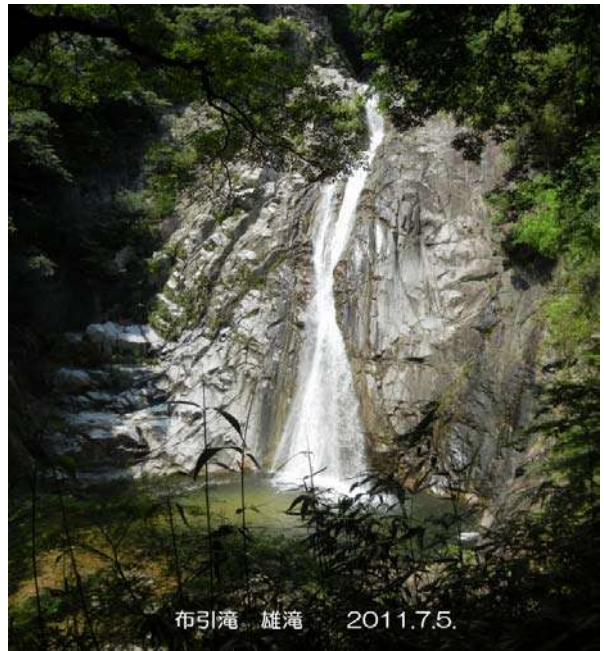


オオヤマレンゲ



2. 布引の滝 2011.7.6.

7月6日 梅雨の合間 素晴らしい晴天の午後 涼を求めて水がほとばしる滝が見たくって 頭の中は「布引滝」
新神戸駅のすぐ裏にある布引谷から市原に出て六甲全山縦走路
を鍋蓋山まで歩きました。



布引の滝 雄滝 2011.7.6.



新神戸駅から歩いて約15分 緑の谷の中を涼風が吹きぬける 布引谷 2011.7.6.



布引谷の上 布引貯水池 六本松堰堤



六甲全山縦走路 鍋蓋山周辺



六甲連山 鍋蓋山から見る神戸の市街地 2011.7.5.



鍋蓋山と菊水山の間 天王谷 有馬海道を平野へ下る 2011.7.5.



3. 高校野球 地区大会を観戦 7.12.& 7.15.

幾つになっても母校の高校野球は気になる。 甲子園出場にわき、応援に行った時のことが、この時期になるといつも頭を駆け巡る。予選が始まり、家の近くの球場で試合があるといつも見に行くのですが、昨年は見に行く前に終わってしまって…。今年是非と出かけました。

2回戦で負けましたが、センターポールに校旗が昇り、久しぶりに校歌そして忘れかけていた応援歌を聞きました。

球場は甲子園ほどの熱気はありませんが、やっぱり気持ちがいい。

また、今年は勝った試合が見れたので、遠方の仲間を含め、同窓の仲間にメールすると数多くの仲間からの返信にびっくり。

若かった時のことを覚えていて みんな母校の高校野球は気になっているんやなあ……と。



暑い暑い姫路球場で12時半より 2回戦 息子の母校と対戦。

昨日電話があつて「うちも強いよ」と。「そんなもん やってみんとよからん。うちのピッチャー ええぞ」と。

今日は2点先行でしたが、残念ながら逆転負け。

どちらのピッチャーも左腕 どちらが先にばてるかの展開でした。

2回戦 姫路球場で 残念ながら逆転負けでした

本当に県尼のピッチャーもよく頑張ったのに 7回力尽きてかわいそうでした。救いは 9回県尼もツーアウトから3点返す頑張り。でも 暑い暑い一日 楽しませてもらいました。

また、仲間 みんな母校愛というか 多くの方から返信メールいただき、ありがとうございました。

昨年は一回も見られませんでした、今年は2回観戦 また 来年 みんなで 盛り上げましょう。

そのうちに 甲子園へ出場してくれないかと思うのですが……どうなるか また 来年です。



4. 梅雨が明けた 入道雲 須磨で 2011.7.14.



高倉山より神戸市街地から大阪湾を眺める 2011.7.14.

7月8日 梅雨明け 昨年よりも9日も早い。ほんとか否と思うのですが、ギリギリの太陽と各地から届く猛暑の情報にこれはほんまやと。いよいよ夏到来。異常気象もおさまってほしいもの。

モクモクと湧きあがる入道雲 ええ写真とりたいなあ・・・。

ちなみに入道雲の半径は約2KM 高さ15km 約1時間ほどで出来て 一機に消えてしまうので、どこに降るのかゲリラ降雨の予報は難しいそうである。でも 高さ15kmもの雨粒の集合体 すごいエネルギーである。

夏の青空と入道雲 なんか重苦しい毎日 一機に気分をさらしてくれそう。

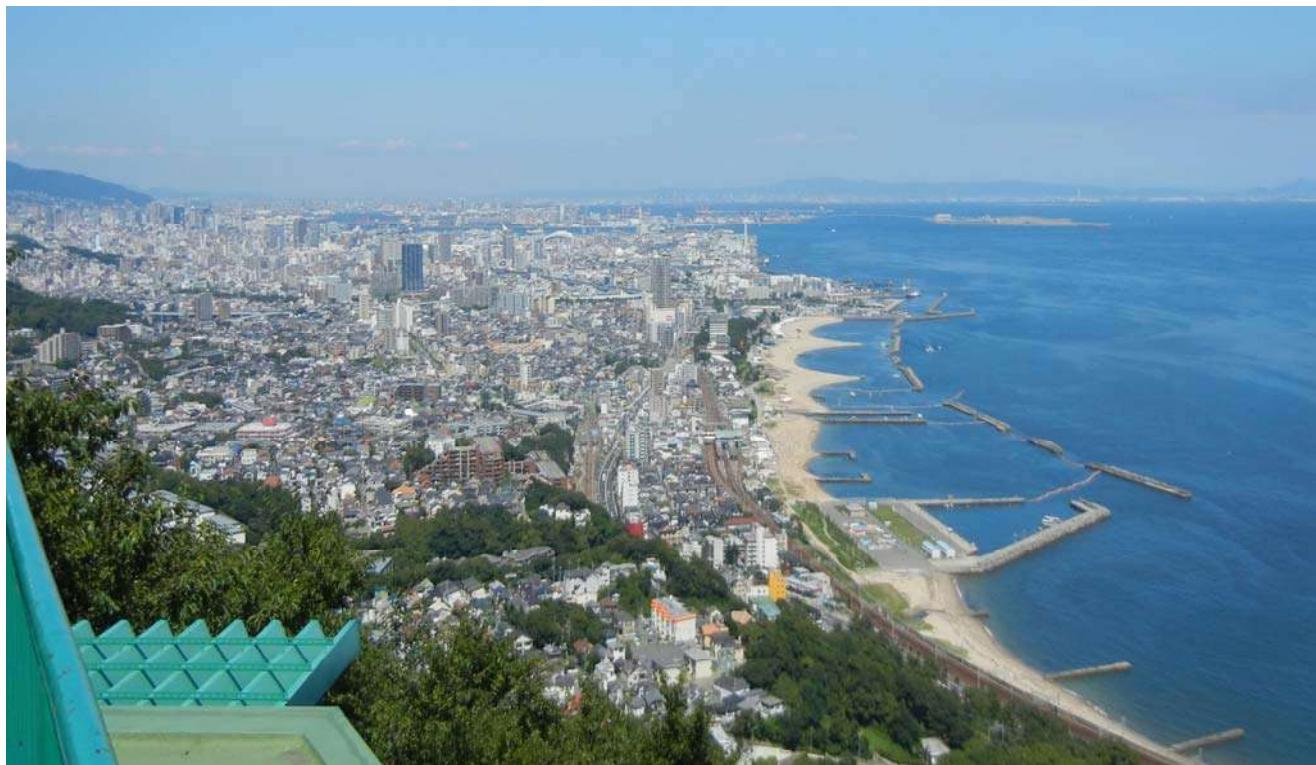
ギンギラギン 太陽が照りつける午後 須磨の山に登って夏の須磨を眺めました。



須磨海岸から淡路島に湧きあがる入道雲



北の西神戸住宅地の上に湧きあがった夏の雲 中央に神出 雌岡山・雄岡山 2011.7.14.



須磨 鉢伏山より 須磨海岸から神戸 遠く向こうに生駒山 2011.7.14.



夏の大阪湾 2011.7.14.

写真上：

神戸市街地から金剛山

写真右：

明石海峡



北の西神戸住宅地 中央に神出 雌岡山・雄岡山 2011.7.14.

2011年夏 琵琶湖守山佐川美術館「セガンティーニ」展と

湖面に広がる蓮の花（草津水生植物公園）

2011.8.11.



琵琶湖東岸 守山なぎさ街道 佐川美術館・草津水生植物公園周辺

- 1. アルプスの画家 セガンティーニ — 光と山 — Giovanni Segantini — Light and Mountains —
 - 2. 佐川美術館の中にある 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館
 - 3. 湖面に広がる満開の蓮の花（水生植物公園 蓮群生地）
- 参考 2008年の夏 スイスの旅より
セガンティーニが住んだサンモリッツ周辺 & ツェルマツト周辺の山郷の風景



アルプスの画家
セガンティーニ — 光と山 —
Giovanni Segantini — Light and Mountains —
2011年07月16日（土）～2011年08月21日（日）
琵琶湖湖畔 守山市 佐川美術館




セガンティーニ展が開催中の琵琶湖湖岸 守山の佐川美術館



湖面を埋め尽くす蓮の群生地 琵琶湖 草津水生植物公園 水の森 2011.8.11.

セガントーニの展覧会が琵琶湖湖岸にある佐川美術館でやっているのを NHK 日曜美術館の番組で知る。

「セガントーニの絵は アルプスの山々を背景にそこに住む人の素朴な暮らしを描いた心地よい絵。

佐川美術館もゆっくり見学したいし、すぐ近くの守山水生植物園の蓮も満開のはず。是非行見にゆこう」
 久し振りに家内と意見一致で 8月11日に琵琶湖守山へ出かけました。



守山 琵琶湖湖岸 緑と水に包まれた素晴らしい環境の佐川美術館 2011.8.11.



日本を代表する芸術家の展示館 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館

セガントーニ展をみにいった佐川美術館は 緑と水に包まれた美術館そのものが素晴らしい鑑賞の対象

日本を代表する彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館が併設され、常時それらの作品がみられるのも楽しみ

また、鳴門大塚美術館の実寸陶板画で見て、強く感動したことがあるセガントーニの代表作アルプス三連作「運命 《生》《自然》《死》」は出展されていませんでしたが、有名な「アルプスの真昼」ほか、アルプスの自然のなかでのほのぼのとす暮らしの風景に気分爽快 気持ちのいい名画鑑賞でした。また、複製画ではよく判らなかつたセガントーニの編み出した独特の描写法にもビックリしました。



セガントーニの代表作 アルプス三連作「運命 《生》《自然》《死》」

アルプスの夕映えを描いた「生」、家路を急ぐ牛飼いを描いた「自然」、そして最後が野辺送りの光景を描いた「死」

佐川美術館が日本を代表する彫刻の佐藤忠良・陶芸の楽吉左衛門・日本画平山郁夫 それぞれの作品をあんなに数多く所蔵していて、素晴らしい環境のそれぞれの展示館でゆっくり見られるとは思ってもよらぬことでした。

佐川美術館が人気である理由もうなずける。お勧めです。

また、すぐ近くの琵琶湖湖面 草津水生植物公園蓮の群生地では湖面をピンクの蓮の花が埋めつくし、美しい夏の琵琶湖の光景。素晴らしい蓮群生の光景に出会えました。



蓮の花が湖面を埋め尽くす琵琶湖 草津水生植物公園 水の森 蓮の群生地 2011.8.11.

遠くに見えるのは近江富士(三上山)

ところで 「早朝 蓮が咲くときには『ポン』と音がすると聞いたことがあるのですが、本当でしょうか…」



1. アルプスの画家 セガンティーニ — 光と山 — Giovanni Segantini — Light and Mountains —
2. 佐川美術館の中にある 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館
3. 湖面に広がる満開の蓮の花 (水生植物公園 蓮群生地)

参考 2008年の夏 スイスの旅より

セガンティーニが住んだサンモリッツ周辺 & ツェルマツ周辺周辺の山郷の風景

アルプスの画家
セガンティーニ — 光と山 —
Giovanni Segantini — Light and Mountains —
2011年07月16日(土) ~ 2011年08月21日(日)
琵琶湖畔 守山市 佐川美術館



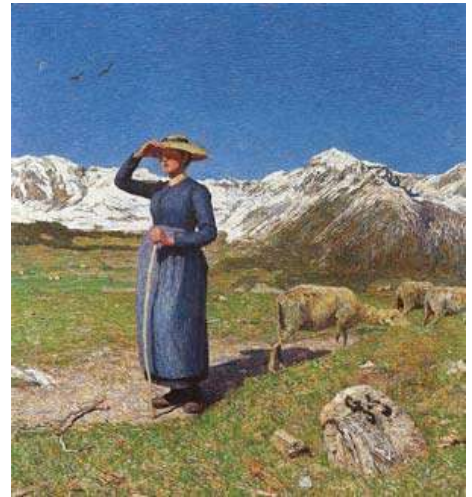
アルプスの画家

セガンティーニ — 光と山 —

Giovanni Segantini —Light and Mountains—

2011年07月16日(土)～2011年08月21日(日)

琵琶湖畔 守山市 佐川美術館



《アルプスの真昼》1891年

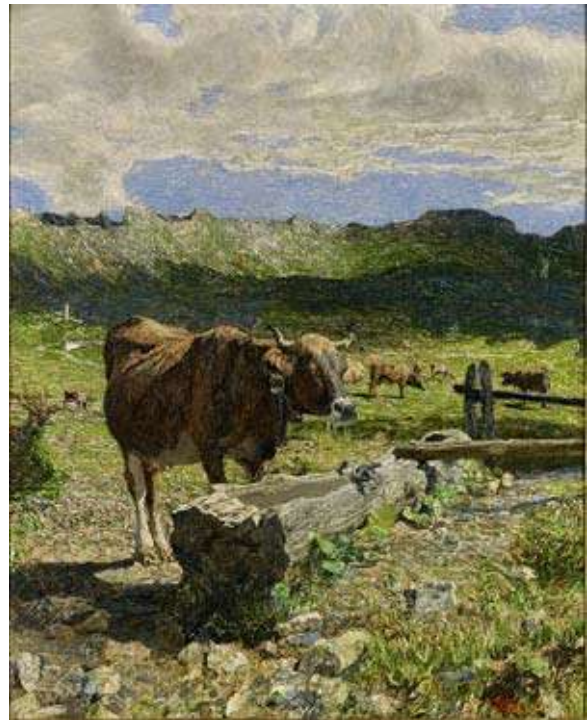
ジョヴァンニ・セガンティーニ（1858-99年）は、アルプスの山々に魅せられその風景を描き続けた画家。セガンティーニの描く明るく清澄な空気と素朴で美しい自然、またそのなかに住む実直な人々や動物たちは、見る人の心を清々しい気持ちにさせてくれる。（展覧会コピーより）



《羊の剪毛》1883-84年、



《日陰の憩い》1892年



《水を飲む茶色い雌牛》1892年、

佐川美術館 home page セガンティーニ展 紹介 Web より

今回 セガンティーニの代表作のアルプス三連作「運命 ‹生› ‹自然› ‹死›」は出展されていませんでしたが、この作品製作のための数々の習作や絵コンテなどが、1/4縮小の「運命 ‹生› ‹自然› ‹死›」コピーと解説と一緒に展示されていました。



セガンティーニの代表作 「アルプス三連作 ‹生› ‹自然› ‹死›」

セガンティーニが亡くなる寸前まで この作品に心血を注ぎ、《死》は本人の突然の死で未完となったため、彼が一体何を描きたかったのか… まだに多くの謎に満ちた作品としても有名。この代表作 製作の心理過程を推察する楽しみもありました。

以前 この作品展が展示されているスイスのセガンティーニ美術館展示をそのまま再現した鳴門大塚美術館 陶板画の実寸展示にすごく感激した経験があり、思い入れも強く、このアルプス三連作「運命 《生》《自然》《死》」製作の集積がみられてよかったです。

イタリア生まれのセガンティーニが、27歳の時に訪れ、その風景に惚れ込んで住み着いたアルプスの山と湖に囲まれたスイス屈指の高級リゾート地サンモリッツ周辺。

このサンモリッツの高台にアルプスを描いた絵の中でも最も美しいといわれるセガンティーニ（1858～1899）の作品23点を所蔵するセガンティーニ美術館がある。

この美術館の誇る代表作が2階の丸天井のドームを飾るアルプス三連作 アルプスの夕映えを描いた「生」、家路を急ぐ牛飼いを描いた「自然」、そして最後が野辺送りの光景を描いた「死」の「運命 《生》《自然》《死》」である。

最後の「死」はまだ明けきらない冬の朝、ソリに棺を積み込む人々。

その光景は死そのものだが、彼方の山を照らす光は生を表しているといわれる。

そして、残されたデッサンには天使と共に昇天する人の姿も描き込まれている。

また、この三連作に描き込まれた風景を実際に巡ることができる。

「生」 は最晩年を過ごしたソーリオの町から見た夕映えのアルプス。

「自然」 はムオッタス・ムラーユ地区を歩けば描かれているとおりのパノラマが広がる。

「死」 に描かれた山はセガンティーニが晩年を過ごしたマローヤの村の彼方にそびえている。

三連作はパリ万博に出品するために制作されたものだったが、その願いを果たせなかったセガンティーニのために、友人たちが、彼の残したパピリオンのデザインを元に、突然の死から9年後の1908年、セガンティーニが最も愛したサンモリッツの地に美術館は開館した。

NHK 教育：「世界美術館紀行」 / 「アルプスの画家ここに眠る」 ～セガンティーニ美術館～ より抜き書き

http://www.geocities.jp/polygon_nakano/LIBRARY/TempRec/02301-NK_museum.htm



スイスの山郷の景色 2008年夏 スイスの旅より

セガンティーニが住んだサンモリッツ & ツェルマット周辺の山郷の風景

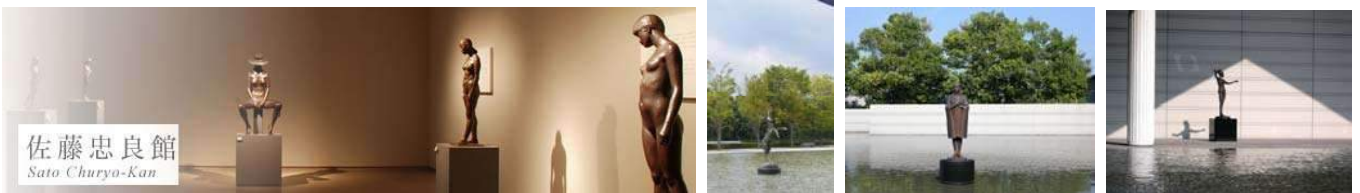


佐川美術館 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館



佐川美術館は 琵琶湖湖岸の緑と水に包まれた素晴らしい環境の広い敷地に 現代建築の粋を集めて建てられた美術館で、美術館そのものが素晴らしい鑑賞の対象。日本を代表する 3 人の作家の展示館 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館が併設。テーマを決めて 所蔵品が公開展示されていました。

モダン軽快な佐藤忠良の女性像の数々。薄暗く統一された展示場に そつと一品づつ浮かび上がる楽吉左衛門の茶器そして、平山郁夫独特の「青」そしてシルクロードの作品群等々。こんなにゆっくりと鑑賞できるとは・・・
 後は ロビーに座って 大きなガラス越しに吉良議やれる水面をみながら ティータイム。
 初めてで 本当にラッキーでした。お勧め。



追悼展 佐藤忠良—ブロンズの詩— 建物を取り囲む水面のあちこちにも佐藤忠良の作品



INSPIRATION 楽吉左衛門フランスでの作陶／茶碗



平山郁夫「文明の十字路口 シルクロードを辿る」の展示と特別な思いで描かれた「平和の祈り—サラエボ戦跡」

湖面に広がる満開の蓮の花 (水生植物公園 蓮群生地) 2011.8.11.



琵琶湖東岸 湖面を覆い尽くす蓮の花が満開の草津水生植物公園 蓮群生地 2011.8.11.



湖面を埋め尽くす蓮の群生地 琵琶湖 草津水生植物公園 水の森 2011. 8. 11.



参考 注記

セガンティーニの作品・佐川美術館の収蔵作品は 佐川美術館 home page ほかの web site から集め、転記させていただきました。

- 佐川美術館 home page <http://www.sagawa-artmuseum.or.jp/cgi-bin/index.cgi>
- NHK 教育：「世界美術館紀行」 / 「アルプスの画家ここに眠る」 ～セガンティーニ美術館～
http://www.geocities.jp/polygon_nakano/LIBRARY/TempRec/02301-NK_museum.htm



サンモリッツの街 ビツナイル展望台へのケーブルより

2008.6.30.

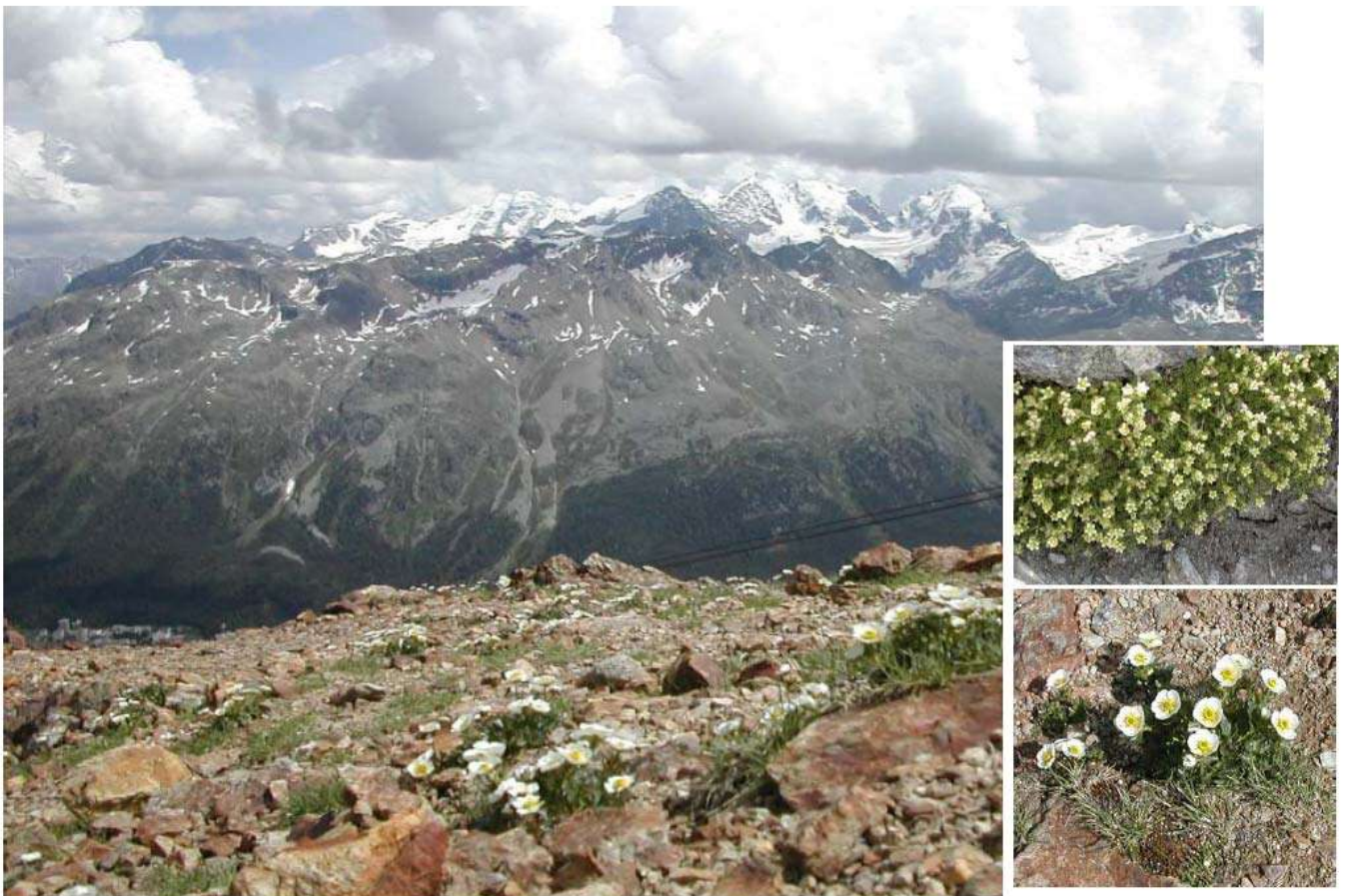


サンモリッツの街

2008.6.30.



ピッツ ナイル展望台から サンモリッツの谷・湖越しに眺めるアルプスの峰々 [2] 2008. 6. 30.



ピッツ ナイル 頂上周辺のお花畑 2008. 6. 30.



ハイジ フラワートレイル 山のなだらかな斜面のお花畑 ハイジの小屋周辺 2008. 6. 30.



ハイジ フラワートレイル ハイジの小屋周辺のお花畑 2008. 6. 30.



ハイジの小屋がある丘周辺 2008. 6. 30.
ピッツ ナイルへ登って行くケーブルのルートが奥に見える



フィンドルンの谷のお花畑 エッゲン集落周辺 2008. 7. 2.



フィンドルンの谷 放牧地が広がるエッゲン集落周辺 [1] 2008. 7. 2.



フィンドルンの谷 放牧地が広がるエッゲン集落周辺 [2] 2008. 7. 2.

西神戸 鶴越の奥にそびえる菊水山からの大阪湾の眺望



真っ青に澄み渡る空に もくもくと入道雲
大阪湾全体が見渡せる菊水山から 入道雲をながめようと
真夏の太陽が照りつける午後 鈴蘭台から森林浴しながら登りました
2011.8.8. 午後



8月8日 真っ青に澄みきった青空にもくもくと入道雲 大阪湾全体が見渡せるめったにないチャンス。暑い暑いと家にも余計に暑い神戸の夏。真っ青に澄み切った空と大阪湾にかかる入道雲を見て、夏の暑さ忘れ 大阪湾全体が眺められる菊水山に入道雲を見に行きました。

菊水山(高さ458.9m)は六甲全山縦走路の西半分の中央 西に鶴越 東に有馬街道小部峠 南の山裾には平清盛の福原京が広がり、神戸市街地から大阪湾全体が見渡せる歴史の山・神戸市民に最もポピュラーな山の一つ。でも、海岸沿いの市街地からは奥に入っているため、最近では近隣の市民や六甲縦走する人以外あまり登らない静かな山になっています。

私も ダイレクトに菊水山頂上へ行ける鈴蘭台からの道は知ってはいましたが、いつも六甲縦走路からで、鈴蘭台駅からは登ったことはなし。行ってびっくり。よく整備されたハイキング道が頂上までつづき、セミの鳴き声を聞きながら森林浴を楽しんで約1時間で頂上でした。



頂上には期待どおりのゆったりとした時が流れ 暑さ忘れの午後。暑い日差しが照りつけるのですが、気持ちはさわやか。

頂上は展望と写真撮影を楽しむ人が数人。鳥が高い空を舞い、山を越えてゆくトンボやチョウが頂上を舞う。

大阪湾を横切って明石海峡に向かう幾つもの船 耳を澄ますと神戸の街の鼓動と時折飛行機の音がかすかに。

大阪・生駒山から二上・葛城・金剛の山 紀淡海峡 そして淡路島・明石海峡まで、大阪湾全体がくっきり。

対岸近く泉南の海に浮かぶ大阪空港やコブが二つ特徴ある二上山も今日はくっきり確認できました。

菊水山からのさわやかな大阪湾展望をスライド動画に。

気持ちさわやか暑さ忘れの神戸大阪湾の景色が伝われば...

神戸の街からは新開地駅から菊水山の山腹を分け入る神戸電鉄で鈴蘭台駅で降りれば、すぐハイキング道でお勧め。

鈴蘭台駅横に駐輪場見つけたので、原付で出かければ自宅からはなんということなし。Walking ルートの一つに加えよう。

神戸夏 2011

菊水山 2011.8.8.



神戸の夏 2011.8.8. 菊水山より

真っ青に澄み渡る空に もくもくと入道雲

大阪湾全体が見渡せる菊水山から 入道雲をながめようと

真夏の太陽が照りつける午後 鈴蘭台から森林浴しながら登りました

2011.8.8. 午後







鍋蓋山から眺めた菊水山



神戸の雨街地新開地から六甲連山をトンネルで北に越えた
庄宮地鈴蘭台から登る 2011.8.8.午後





森林浴を楽しみながら 1時間弱 谷筋をつめると頂上 2011. 8. 8.
頂上にある電波塔へ通じる管理車道が尾根の向こうの斜面をジグザクに登り、こちらも歩くことができる



2011.8.8. 菊水山







六甲連山 鍋蓋山・再度山 背後に六甲山から摩耶山・布引から六甲アイランド



東神戸 六甲アイランドとポートアイランド 2011. 8. 8.



神戸市街地の向こうに ポートアイランドと神戸空港 2011.8.8.



神戸市街地 ポートアイランド・三ノ宮・元町 2011.8.8.



神戸【3】 和田岬・兵庫・長田・大阪湾の奥正面 関空



神戸の市街地 和田岬・兵庫・長田 遠く大阪湾の奥正面に関空のタワーがかすんでいる 2011.8.8.



西神戸[1] 山並みを連れね 須磨で明石海峡に落ちる六甲連山 鶴越・高取山・横尾山・旗振山・鉢伏山 2011.8.8.



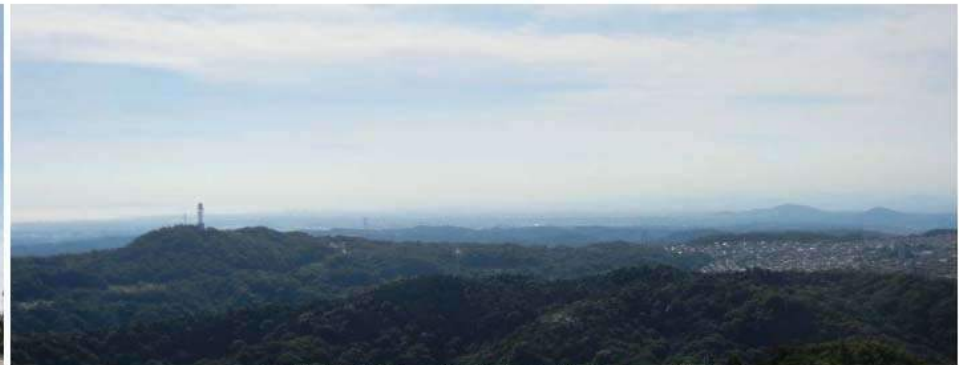
西神戸[2] 山並みを連れね 須磨で明石海峡に落ちる六甲連山 鶴越・高取山・横尾山・旗振山・鉢伏山 2011.8.8.



明石海峡から播磨灘・西播磨方面 2011.8.8.



菊水山電波塔



西播磨方面 鶴越から雄岡山・雌岡山



神戸 夏 2011 [END]

菊水山 2011.8.8.

神戸の夏 2011.8.8. 菊水山より

彼岸花の里 & 播磨の最高峰 千ヶ峰登山

1110taka00.htm 2011. 10. 5. by Mutsu Nakanishi



写真PDFアルバム [Pdf file]
彼岸花の里 & 播磨の最高峰 千ヶ峰登山

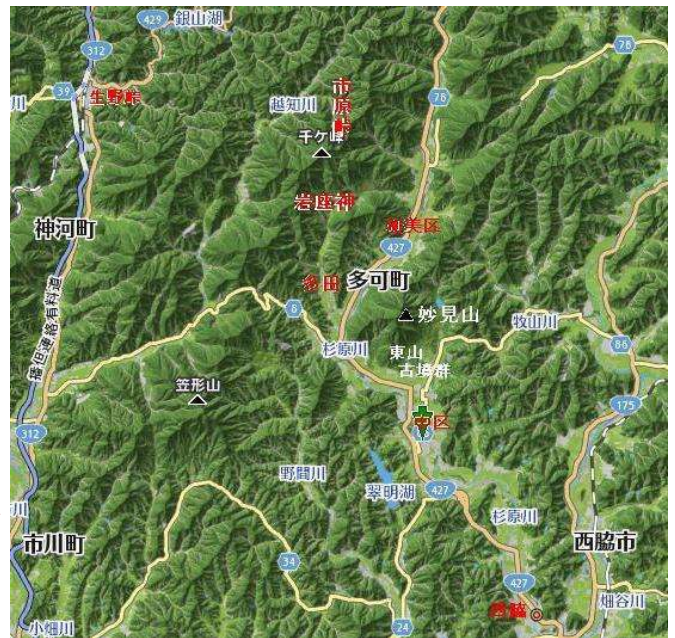
1. 彼岸花の里 多可町
2. 三谷登山口より千ヶ峰に登る

お彼岸が過ぎて めっきり秋らしくなって 稲穂が実り、田の畔には彼岸花が咲き始めたのを 待ちかねて、東播磨北部西脇の奥 多可町 妙見山山麓の彼岸花の里を訪ね。またその奥にそびえる播磨の最高峰千ヶ峰(標高 1005m)を訪ねました。

妙見山周辺はかつての銅鉱山跡で、山麓には古墳群が点在する古くから開けた山郷で山に囲まれた谷間の田圃の畔にはこの時期彼岸花が咲く 彼岸花の里である。

また、妙見山の北西に杉原川がながれくだる谷筋を挟んでそびえる「千ヶ峰」は古くからの修験道の道場と知られ、数多くの峰と谷があり、そこから「千ヶ峰」の名がついたとも、また 急峻な尖った山「尖ヶ峰」「仙人が降りた峰」が「千ヶ峰」になったともいい、360度の展望が楽しめる山としてハイカーに親しまれた山でもある。

岩座神周辺には 幾つもの巨石・磐座などが残っている。



この8月の終りに千ヶ峰の登山口でもある山腹の岩座神(いさりかみ)集落の棚田が美しいと聞いて出かけて 岩座神(いさりかみ)の古地名や山の古い伝承を知って、「次回は是非登ろう。それも畔が彼岸花で飾られる実りの秋に」と。

お彼岸が過ぎ、天候が回復した晴天の平日の9月27日 国道175号線を北へ原付を走らせ 西脇を抜けて多可町へ。東播磨の奥 多可町の秋景色「山々に挟まれた田圃地の畔に咲く彼岸花と東播磨の最高峰千ヶ峰からの360度の展望」をスライド動画とPDF 写真アルバムにまとめました。

● **彼岸花の里** 多可町中区(旧中町間子) & 加美区(旧加美町加美) 周辺

彼岸花の里として多くの人が行く多可町中区の間子集落周辺 一面黄金色の田圃の畔には彼岸花が満開。
「秋がやってきた」と感じる毎年の光景。

田圃では稲刈りを終え、彼岸花からコスモス そして山の紅葉へと秋が深まってゆきます。
楽しみにしていた 千ヶ峰の山腹 岩座神集落の棚田ではすでに収穫がほとんど終わっていました。

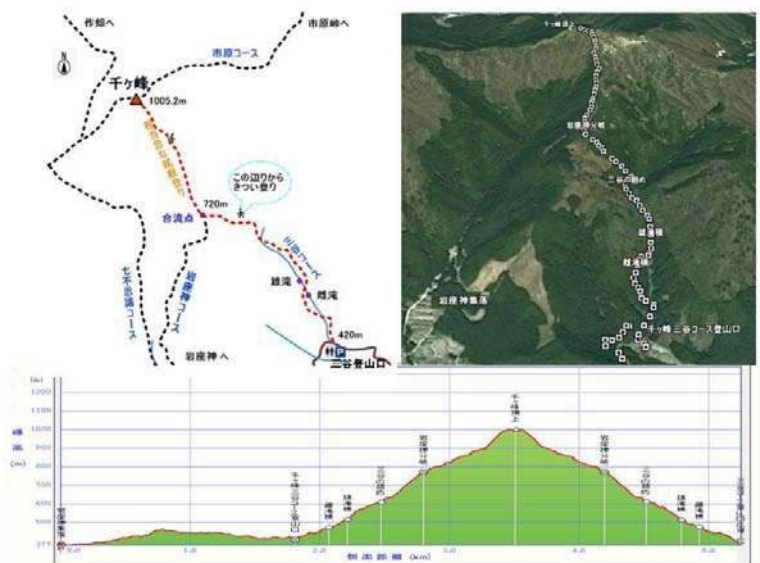


● **三谷登山口より千ヶ峰へ**



岩座神集落から千ヶ峰に登る尾根道があるのですが、滝がある三谷コースに登ることにして、岩座神集落から東側へ尾根を乗り越え、三谷登山口から千ヶ峰へ。

約2時間弱のコースにちょっと甘く見ていましたが、三谷の谷筋から千ヶ峰頂上への直登尾根へ ほとんど平坦地がない直登ルート。



三谷溪谷には雌滝・雄滝の2つの滝が記されているのですが、谷そのものが滝の連続で、滝を眺めながら山腹の道をつめる気持ちの良いコース。
谷をつめ尾根へ登ってやれやれと思いましたが、そこから頂上まで登りのほぼ直登ルート。厳しくはないのですが、ロープがあり、ごつごつした岩が出ている凸凹の平坦奈部分がない登り道が約1時間ほど。



一歩も同じ歩幅 高さがとれずで、ついに下りの膝が心配で、へたりながら頂上に着きました。
案内板のコースタイムは頂上まで 1時間40分ほどでしたが、約2時間 久しぶりのアゴ出しでした。



三谷溪谷古ヘスを千ヶ峰へ 2011.9.27.

幅の狭い細長い30mほどの平地で、西の頂 石塔の前に三角点 東の頂に頂上の柱が建ち、平地の脇にはススキが穂をつけ、吹く風がちょっと冷たい秋の景色。平日なので誰一人いない360度の展望を独り占め。30分ほど頂上で、周囲を眺めながら深まりゆく秋の山景色を楽しみました。

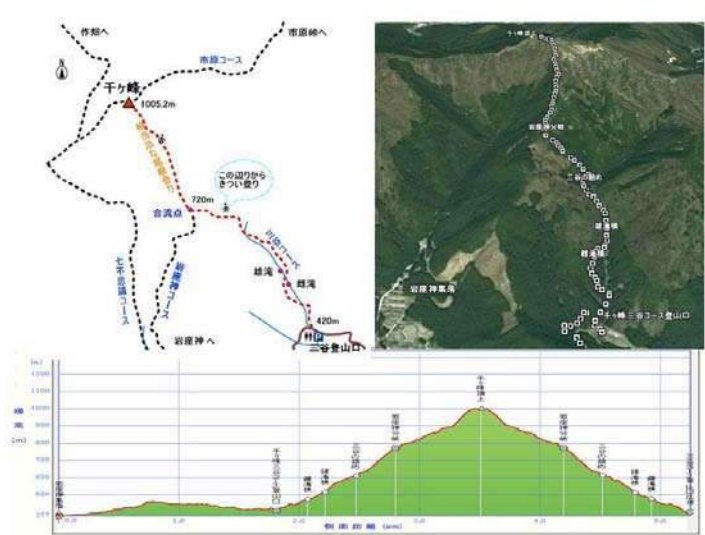
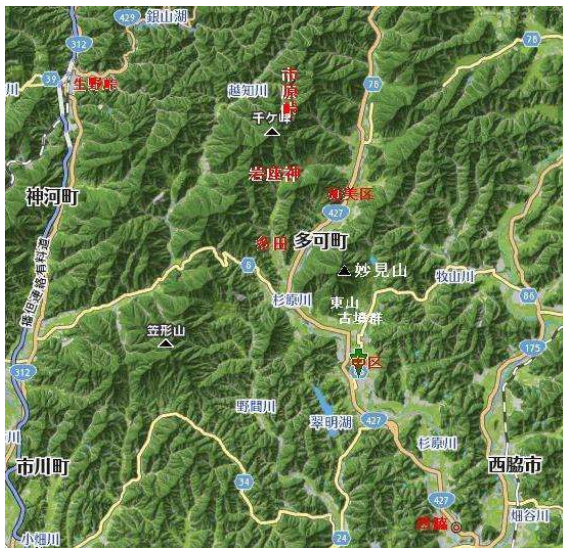
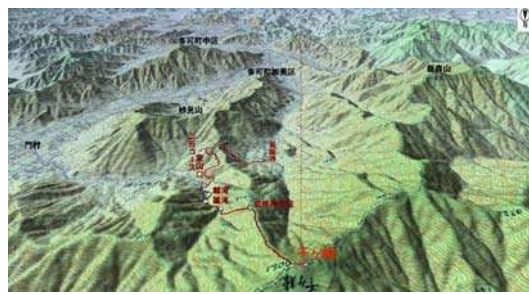


千ヶ峰 頂上周辺 山にはススキの穂が垂れ、すっかり秋景色
千ヶ峰頂上からの360度展望 2011.9.27.



特定はようしませんが、東側には市原峠へ続く稜線縦走路 そして 杉原川の谷を挟んで 篠ヶ峰・竜ヶ岳から丹波高地の山々 北には 生野峠周辺の山々 西には雪彦から峰山高原の山々西北の奥に薄く見えるのが、氷ノ山・鉢伏山か？ 南には遠く笠形山への山並みが続き、この山並と妙見山に挟まれて 岩座神集落・加美・中町と多可町の田園地が播磨平野へと続く





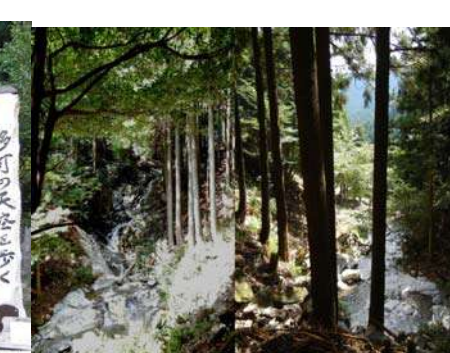
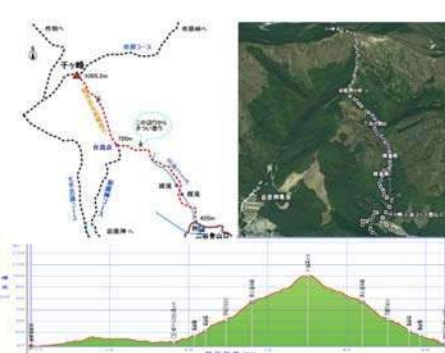
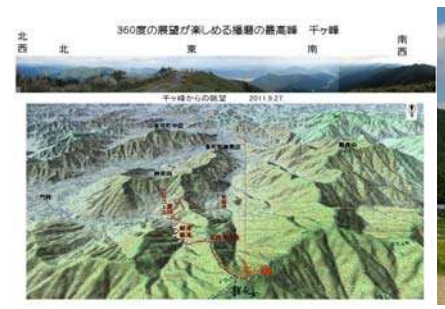
《 参考 》

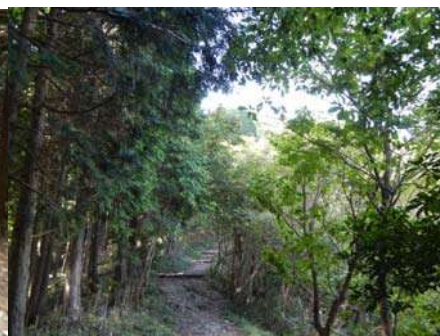
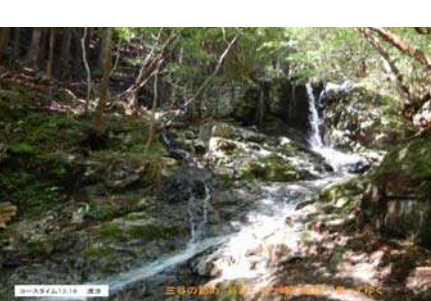
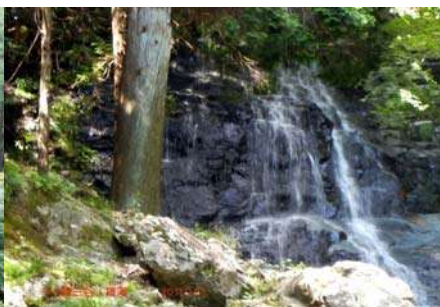
- 1.【四季折々】 [播州 千ヶ峰の谷奥 山の急斜面に広がる岩座神\(いさりかみ\)の石垣棚田](http://infokkna.com/ironroad/2011htm/h2309.htm) 2011.8.24.
<http://infokkna.com/ironroad/2011htm/h2309.htm>
- 2.【風 来 坊】 [赤・黄・白三色の彼岸花を播磨妙見山の山裾多可町中区間子に訪ねました](http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/7walk11.pdf) 2008.9.22.
www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/7walk11.pdf

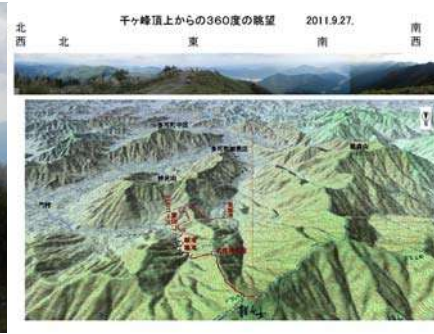
彼岸花 & 千々峰ハイク

播磨 多可町の秋を訪ねる 2011.9.27.









千ヶ峰頂上からの360度の眺望 2011.9.27.

(西) 菅彦から峰山高原の山々

<p>西方向 菅彦山 芝原山方面 2011.9.27</p>	<p>西方向 菅彦山 芝原山方面 2011.9.27</p>	<p>西方向 菅彦山 芝原山方面 2011.9.27</p>
<p>(南) 岩座神・加美・播磨平野</p> <p>南方向 岩座神 加美 播磨平野 2011.9.27</p>	<p>南方向 岩座神 加美 播磨平野 2011.9.27</p>	<p>(北) 生野峠・中国山地脊梁の山々</p> <p>北方向 生野峠 中国山地脊梁の山々 2011.9.27</p>
<p>東方向 菅彦山 加美区杉原方面 2011.9.27</p>	<p>東方向 菅彦山 加美区杉原方面 2011.9.27</p>	<p>東方向 菅彦山 加美区杉原方面 2011.9.27</p>

(東) 杉原・猿ヶ峰・電ヶ岳から丹波高地の山々





北方向 生野峠方面 中央奥 黒鹿山 2011.9.27.



北西方向 左奥 藤無山・水ノ山? 2011.9.27.



南西方向 緑橋尾根 笠形山方面 2011.9.27.



南方向 岩座神集落の谷筋 左手 妙見山 2011.9.27.



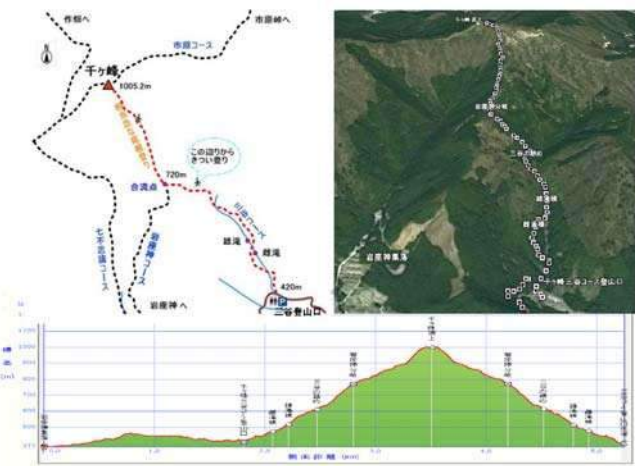
360度の景観を楽しんだ後 同じ道を下山開始



棚田の美しい岩座神集落の谷筋 2011.9.27.



播磨 多可町 千ヶ峰 2011.9.27.



東播磨 加古川東岸の丘陵地 加古川市志方に秋を訪ねる【2】 [スライド動画] 播磨の小さい秋 コスモスの郷 志方

加古川の東岸 加古川市志方町で 2011.10.17.

1111sikata00.htm 2011.10.25. by Mutsu Nakanishi



黄金色の海 加古川東岸美土呂



コスモスの郷 志方



蕎麦の郷 来住野



播磨の小さい秋 コスモスの郷「志方」 2011.10.17.



10月 実りの秋を迎えた播磨平野は黄金色に輝き、村々には豪華な祭屋台の太鼓の音が響き渡る。そんな頃 東播磨加古川東岸の丘陵地の間に広がる加古川市志方では各々の集落が休耕田を利用したコスモス畑を競いあう。かつて、戦国播磨の大名 赤松氏の城があったところであるが、今は秋になると田園にコスモスコスモスが咲き乱れるコスモスの郷で全国的にはあまり知られていないが、但馬牛の血統種を育成したおいしい牛肉「加古川肉牛」の本場である。

秋 田園の畔を飾った彼岸花が過ぎると次は「コスモスの花」。「そろそろコスモス 志方のコスモス畑はどうだろうか・・・」と。

昨年は夏の異常気象と雑草の繁殖で きれいに咲きそろう畑がなく、ちょっと残念でしたが、今年は例年よりちょっと咲くのが遅れ気味でしたが、田園地帯一面をピンクに染めるコスモスが見られました。特に野尻や高畑のコスモス畑が美しく、毎年キバナコスモスを一緒に育てる広尾のコスモス畑も綺麗でした。広尾出であった婆さんは「来年はもっと沢山咲かすよ。期待して」と。

この志方の町の北側中央にはかつて戦国大名赤松氏の山城があった中道子山(城山・272m)がどっしりと座っていて、今年はこの頂上にも登って、播磨平野の展望を楽しみました。

帰りは、城山の北側 中国自動車道沿いの野尻から蕎麦の郷 小野市来住野の蕎麦の花そして蕎麦を食べて 美土呂の日帰り温泉へ 観光の人混みのない平日のどかな田園地帯 例年の楽しみな東播磨の秋探索「コスモスの郷 志方」を楽しみました。

今年のコスモス 珍しくもないでしょうが、例年の定点の深まりゆく日本の秋景色 写真動画にまとめました。

2011.10.17. by Mutsu Nakanishi

【写真アルバム】 東播磨 加古川東岸の丘陵地 加古川市志方に秋を訪ねる【2】

2011.10.17.

播磨の小さい秋 コスモスの郷 志方 << PDF 写真アルバム >>



加古川東岸の丘陵地 志方町 城山から志方の田園&播磨平野を眺める。(左端奥 平荘湖 右端奥 高御位山)
2011.10.17.



小野市来住野の丘陵に広がる蕎麦畑 2011.10.17.



黄金色に輝く加古川市美土呂の田園 2011.10.17.



【コスモスの郷 加古川市志方のコスモス畑】



志方町野尻(1)



志方町野尻(2)



志方町高畑



志方町広尾の背後 城山



志方町広尾



公園集落から見る城山 2011.10.17.



コスモスの里 加古川市志方町 2011.10.17.







志方町野尻 コスモス畑 2011.10.17.



志方町野尻 コスモス畑 2011.10.17.



志方町高畑 コスモス畑 2011.10.17.



志方町高畑 コスモス畑 2011.10.17.



志方町東飯坂 コスモス畑 2011.10.17.



城山を背に 志方町高尾 コスモス畑 2011.10.17.



志方町広尾 コスモス畑 2011.10.17.



城山を背に 志方町広尾 コスモス畑 2011.10.17.



城山も背に、志方町広鹿、コスモス畑、2011.10.17



志方町の背後にある城山(中道子山 271m)に登る 2011.10.17.

中道子山【ちゅうどうしさん・志方の城山】

播磨中部丘陵県立自然公園にあって、南北朝期：赤松円心の四男・氏則により築かれた赤松氏一族の山城。

本丸、二の丸、三の丸から構成され、すべてを含めると約6600㎡の規模といわれ、天正年間、羽柴秀吉によって落城したと伝えられている。

頂上からは、東播磨一円を眼下に見渡すことができる。





応尾集落から見る城山 2011. 10. 17.



城山登山口 2011. 10. 17.



城山山頂 2011. 10. 17.



城山山頂 2011. 10. 17.

城山山頂より南東方向 遠く播磨平野 2011. 10. 17.



権現湖



志方町広尾周辺の田園



広尾のコスモス畑が眼下に



城山山頂より南側 志方町の田園 左 平荘湖 右奥 高御位山 2011. 10. 17.



志方町の田園 奥に 平荘湖



志方町の田園 眼下に広尾のコスモス畑



城山山頂部にあるNKK反射板



広尾集落から見る城山 2011. 10. 17.

中道子山城跡

豊前国熊野郡中道子(熊野)にあって豊前、本州、二の丸、三の丸から構成され、築城後で最大1000坪の城跡が残っています。

山頂には、城跡の中心に、特殊な形の石造物、四方尖塔状の、南の上から東を向いて並列する三つの石造物があります。

本丸は、標高277mの山頂にあり、土塁跡が残っています。本丸入口の北東隅に、石を二重に積み、内側に石を積みあげています。

この山には、大宰府と土佐藩が置かれました。大宰府は、山頂の南東と北西に土塁跡があり、その間に石を積みあげています。また、土佐藩は、山頂の北東と南西に土塁跡があり、その間に石を積みあげています。

中道子山城跡(1521-1527) 築城後、大宰府と土佐藩が置かれました。この山城跡は、大宰府と土佐藩の戦いの跡です。この山城跡は、大宰府と土佐藩の戦いの跡です。

中道子山城跡保存会
平成13年3月 高野川町教育委員会

城山の北東に広がる 蕎麦の郷 小野市来住野 2011. 10. 17.



城山の北東に広がる 蕎麦の郷 小野市来住野 2011. 10. 17.



紅葉の名所 京都 西山 粟生の光明寺 2011.12.4.



京都 紅葉した西山の山麓に広がる長岡京市粟生の里 中央丘陵地の麓に光明寺がある 2011.12.4.



紅葉と師走が同時にやってくる暖冬異変 地球温暖化が本当に急速に進んでいる。師走になっても 街の紅葉も色好き始めましたが 一向に真っ赤にならず、くすんだ色のままで 落葉してゆく。
最近 現実の気象異変が気になりながら、真っ赤な紅葉をみたくて、真っ赤に紅葉することで有名な京都西山 小塩山山麓 粟生の光明寺を久しぶりにたずねました。



長岡京市は街中全体がそっくりかつての長岡京がうずまり、町の西側に接する北摂連山・京都西山の山麓には竹林が広がり、ここで採れる筍は春の京料理を代表する逸品でもある。また、光明寺は法然上人が開いた念仏道場。奥に法然上人の御廟があり、境内全体を真っ赤に染める紅葉がすばらしく、京都市内の喧騒を離れて 散策できるとして 知られた名所。

阪急長岡天神駅からバスで 10 分ほど 歩いて 30 分ほどで、北摂 京都西山の麓 光明寺がある粟生の集落である。線路とクロスする道を丘陵地に向かって西へ商店街を抜けると長岡京市の公共施設が立ち並ぶ八条ヶ池の十字路。

このまま真直ぐ進んで、古い街道(丹波街道)を道なりに山際の集落沿いを北に行けば、粟生の集落 光明寺の前へ出る。また この十字路を北に広いバイパス道路をとっても、田圃の向こうに紅葉し始めた西山の麓 粟生の集落が見えてくる。

のどかな里歩きを楽しみながら粟生の光明寺の門前へ光明寺の山門をくぐるのは 十数年ぶり。でも 山門をくぐって直ぐ 真っ赤に紅葉したならかな坂 京都を代表する紅葉はそのまま見事な紅葉が楽しめました。

かつては見学者はみんな 講話を聞いてから出ないと境内散策が許されなかったのですが、それはもう遠い昔。

本当に長いこと来なかったなあ・・・と。



真っ赤に染まった 粟生の光明寺 境内 2011. 12. 4.

2011 年秋 紅葉のアルバム 京都西山 栗生光明寺の紅葉 2011. 12. 4.





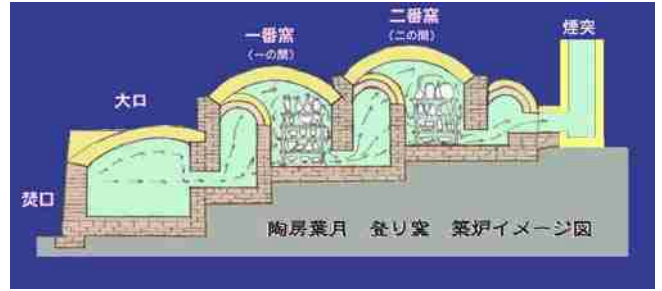




山口市吉敷 萩焼陶芸家 田中講平さんが築いた登り窯 初窯・本焚きを見学 2011.1.15.



2011. 1月 登り窯開窯



こつこつと一人で煉瓦を積んで 約1年かけて自作の登り窯築造を続けてきた山口市吉敷の郷 萩焼陶芸作家の田中講平さんから、

「1月15日 いよいよ登り窯に火を入れる初窯・焚き上げ。
多くの人があるので 見学にきませんか」

と声をかけていただいた。

現在 陶芸の窯は、ガス窯・電気窯がほとんどで、萩焼もその例外でないとお聞きますが、約1年ちっと前 田中さんから

「やっぱり 自前の登り窯を持ちたい。
もう場所も構想もできているので、材料を集め、
作陶の合間に自作で 陶房の背後の山際に登り窯
を築くつもり」との電話をいただいた。

山口県立美術館で萩焼の展示を案内をしてもらった時に赤みを帯びたグラディエーションが浮かび上がる萩の肌を眺めながら「どうしても 出したい萩焼の味がある」と熱っぽく解説してもらった田中さんの顔がすぐに頭に浮かぶ。これを探求するんだなあ・・・と。

でも、初めは半信半疑 よもや本当に一人で 登り窯の築造を開始されるとは・・・

「窯の天井の内側からの支えどうする??? 落とさぬよう 出来るまで 中に入ったら あかん。窯の仮焼き そろりと」などと素人が心配しましたが、 御自分のアイデアも随所に盛り込んで この1月 めでたく完成。

築造の過程ではその都度 写真などメールでお知らせいただいて、経過を聞かせてもらっていたのですが、御自分のアイデアも随所に盛り込んでこの1月 めでたく完成。立派に築かれた登り窯にもうびっくりです。

萩焼の窯の操業では鉄分を嫌うと聞かれますが、その土には鉄分を含む土が混ざられ、釉薬の選定ばかりでなく、登り窯の窯の雰囲気・焼成温度を技法として制御することにより、焼独特のあの淡い色の肌と窯変の妙味が出てくるという。萩焼のあの淡い色や斑点状の様子が窯の中でどんな風に現れてくるのだろうか・・・萩焼の登り窯の操業過程を直に見せてもらえる。

是非とも お祝いかねて 窯焚きの様子をじっくり見せてもらいに行こう……。

また、日本固有の製鉄「たたら」の製鉄炉のルーツにひかれている私には規模は小さいですが、山の尾根筋の風の通り道に築かれた「穴窯」→「登り窯」も その原型の可能性のひとつ。その操業の類似性をつぶさに観察できるチャンスでもある。

本年一番の寒い雪が降る厳しい一日でしたが、家内と二人で山口市吉敷の田中講平さんの陶房「陶房葉月」を訪ね、夜遅くまで 登り窯の初焚きを窯の前に居て、応援や見学に訪れた多くの人たちと共につぶさに見学させていただきました。登り窯の窯前に 一日ずっと居させてもらって、田中さんのホームページの編集用のスナップやデジカメ動画をバチバチ撮影。そのスナップやデジカメ動画をもとに「陶房葉月 登り窯 初窯の一日」のデジカメ記録を作成させてもらい、このページの上にあるスライド動画にまとめさせていただきました。

萩の七変化とよばれる萩焼がこの登り窯の窯変の中で作られてゆく。何度か断片的に登り窯の操業のビデオを見たことがありますが、作業の中身はほとんど知らない、細かな一連の作業が登り窯の温度を上げながら実行されてゆく。

たたら炉による製鉄でもそうですが、シンプルな構造の窯の中で、研ぎすまれた一連の技で萩焼が仕上がってゆくことにびっくりでした。

思いの方が強くて あまりうまく撮れていませんが、知っているようでよく知らなかった登り窯の窯焚きを一日追わせていただきました。この資料作成には 田中講平さんのホームページに使われた写真を数多く使わせていただきました。

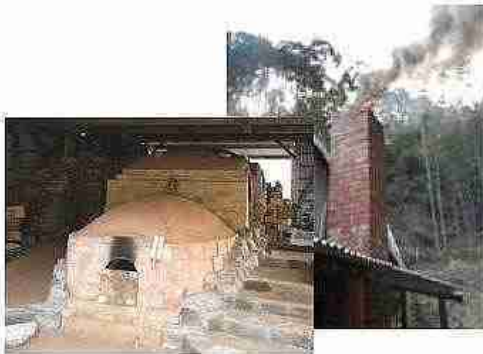
田中講平さんのホームページにも「陶房葉月 登り窯 初窯の一日」ほか 陶房葉月の登り窯・初窯の詳細記事が掲載されていますのでご興味のある方はそちらも是非ご覧ください。

なお、「陶房葉月 登り窯 初窯の一日」のスライドが 田中講平さんのホームページにありますので、ご興味のある方はそちらもご覧ください。

- 田中講平さんの萩焼陶房「陶房葉月」の登り窯 初窯の一日
 - ◆ home page top <http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/>
 - ◆ 登り窯 初窯の一日 <http://buffalonas.com/mutsu/hazuki/noborigama/noborigama00.htm>

萩焼陶房「陶房葉月」の登り窯 初窯の一日 【抜粋】 2011.1.15.

登り窯 初窯・初焚き



2011.1月 登り窯開窯



田中さんの陶房葉月 写真中央の山麓 少し登った高台にある

1月14日 初窯を明日に控えた陶房葉月を久しぶりに訪れる。山口市湯田温泉から秋吉台・美祢に延びる国道に入ってすぐ 左手の丘陵地の山腹に田中さんの陶房「陶房葉月」が見えてくる。国道から見るとちょうど小さな二つの丘の張り出しの間の奥まった高台。登り窯の位置としては 風が山へ駆け上がる絶好の通り道に見える。後で田中さんに聞くと「風の通り道」意識したと。早速、初窯を明日に控え、窯詰の作業が急ピッチですすむ登り窯をみせてもらう。



陶房葉月の山際 風の通り道に沿って築かれた登り窯

田中さんの登り窯は一列に並ぶ窯が2基と比較的小型であるが、随分大きい。 また、築造過程ではさほど気にならなかったが、登り窯の傾斜が随分大きい。

立派な登り窯である。

一番手前の大口の焚口に木片などを入れて燃やして、煙突へ抜けてゆく炎によって1の窯・2の窯を予熱する。

作品が可間詰めされた一の窯・二の窯の窯口は登り窯の横にあり、この窯口から窯に作品が窯詰めされ、一旦封入される。

そして、大口からの窯焚きで登り窯全体を約900℃程度まであげ、その後 大口の焚口を閉じ、今度は一の窯・二の窯と順次、さらに高温に焚き上げて、作品を焼き上げてゆく。



陶房葉月 登り窯 「一の窯」と「二の窯」の窯口

封入されていた窯口は薪が投げ入れられる小さな焚口が開けられ、薪を投げ入れては閉じる繰り返しによって雰囲気調整しつつ、窯の温度をさらに上げ作品を焼き上げる。

(萩焼の焼き上げ温度はほかの焼き物の焼き上げ温度が1300℃越えと高いのに比べると比較的低い1200℃越え程度であるという。 ここにも萩焼の特徴がある。)

急ピッチで窯詰めが進む登り窯へ。

「窯の中 入ってもいいよ」と窯の中からひょいと窯詰め中の田中さんが顔を出す。窯を覗くと 隙間なくびっしりと作品が詰められているが、まだまだ 窯詰しないといけないらしい。

また、窯詰途中の煉瓦積みの壁が美しく、アーチも本当にきれい。昔 建設中の高炉内部の煉瓦積みの美しさに見とれたのをふっと思い出す。

陶芸家はみんな こうなのだろうか・・・とひとしきり煉瓦積みの内部に見とれる。

田中さんのアイデアと器用さには本当にびっくり。

田中さんの話によると「この登り窯で 丸一日焚き続けて作品を焼き上げる。表の物置場や登り窯の脇に積み上げた材木端の山も薪も今回でほぼ全部使うことになる」という。そんなに使うのかとも思いましたが、一昼夜丸一日焚き続けると聞くと納得である。

「登り窯は一年に数度しか焼けない」「登り窯のコスト考えると登り窯では焼けない」とか 何度か耳にしたことがありますが、準備する作品量も準備する燃料 そして焚き続ける体力。 そのスケールは大変だ。



窯焚きに使われる材木端と薪の一部



1月14日 登り窯の初窯・本焚きを明日に控え、急ピッチで窯詰が進む

1月15日午後 登り窯を音連れると 陶芸教室の皆さんはじめ、数多くの見学者が詰めかけ、窯場の焚口を半円に取り囲んで窯焚きを見ている。

登り窯の焚口大口の前には材木端が積み、次々と焚口に投げ込まれる。焚口を覗きこもうと顔を近づけると 熱い 熱い。忘れかけていた久しぶりのこの感覚、風の通り道 大口の窯の中は真っ赤な炎が窯の奥へ奥へとすごい勢いで吸い込まれてゆく。

本当にすごい迫力。長くは覗き込んではいられない。「これが登り窯か」と。

炉のタイプ・大きさは違うが、かつて鉄を溶解する電気炉の炉前 忘れかけていた久しぶりの感覚である。



登り窯の窯焚きが始まる 2011.1.15.

登り窯の窯の中に入れられた熱電対温度計測器の値は300℃ほど。窯の表面にふれると少し暖かくなっている。

ちらちら腕時計の針を眺めながら窯の温度上昇速度の計測を始める。これも習性が 15分 30分 1時間 ども 1時間で約100℃の割で窯の温度が上昇している。田中さんから教えてもらっていた900℃近辺には夕方暗くなった頃 順調な温度上昇のようだ。

みんな 嬉しそうに窯の火を眺めながらの炉前。待ちに待った登り窯 初窯・窯焚きが始まった。



登り窯の窯焚き 登り窯の大口焚口に材木端が次々と投げ込まれ、窯の温度があげられてゆく 2011.1.15.

順調に窯焚きが進行し、夕方暗くなりだした頃 窯の温度は900℃を越え いよいよ一の窯・二の窯の本焚きの準備が始まる。

一の窯の窯口の下の方に薪を投げ入れる小さな焚口の煉瓦が外され、開閉できるように準備される。

そして、一の窯の天井に登って 左右にある炎確認の小窓が開かれ、炎が噴き出すのが見える。

窯口は黄白色にまぶしくもう中を裸眼では覗けず、窯が高温になっていることがよく判る。

大口の焚口は上部を少し残して閉じられると窯の天井部の左右に小さく開けられた窓からはまるで息をするかのように妖艶な炎がくねる。もう みんな 一の窯の天井から登る炎に釘付け いよいよ 一の窯の焚き上げが始まる。



一の窯の焚口の煉瓦がはずされ、焚き上げの準備



一の窯の天井の小さな小窓からは炎が噴き出し、作業の進行とともに妖しくくねる



見学者もみんな 一の窯焚き上げの開始に釘付けで 窯の天井の炎を眺める

一の窯の小さな焚き口を開いては手早く薪を数本 投げ込んで焚き口を閉じる。無言の中に緊張感がみなぎっている。窯口が開き、薪が投げ込み、そして閉じるたびに天井の炎が変化する。登り窯の焚き口が封鎖されると 空気量が少なくなり、勢いよく天井窓から噴き出していた炎は淡い青みを帯びた還元炎となり、ポツと窯の中に引き込まれてはまた灯る。焚き口が開かれると空気が流入し、天井窓の炎は勢いを増し、投げ込み後 焚き口が閉じられると炎は弱くなって、ポツ息をする炎となる。この炎を眺めながら 薪の投げ入れ位置 投入量 投入間隔を調整しつつ、窯の中にある作品を行きあげてゆく。幻想的な雰囲気の中で 窯の中では酸化還元雰囲気調整される。陶芸家 それぞれの腕の見せ所である。温度は1000℃を越え、作品の釉は溶け出し、作品は舐める炎と反応し始める。この繰り返しで 作品は1200℃越えまで 焼き上げられ、登り窯 窯変の「妙」 窯詰めされた作品が「萩」に生まれ変わってゆく。



一の窯の加の焼き



一の窯の窯焼き 火力の強い薪の投げ入れで さらに高温へ焼き上げる

一の窯の窯焼きが終わると 次に二の窯に移る。同じ作業を繰り返し行って、二の窯に窯詰めされた作品も萩焼に変わってゆく。順調に窯焼きが終了したのは16日未明。まる一日がかりの窯焼きである。その16日朝は 夜から降り続いた雪が登り窯を祝福するかのように吉敷の郷を純白に包み込んでいました。うれしい登り窯 初窯・本焼きが無事終了。 あたらしい陶房葉月の登り窯の完成です。



窯焼きは雪が降り続く深夜も続き 16日明け方に窯焼きを終わりました



1月16日 窯焼きの終わった朝 吉敷の郷は一面銀世界におおわれました

どんな作品が生まれるのか 楽しみな一日。窯出しは19日 待ち遠しい窯出し。後日 田中さんより 初窯がうまくいったという 便り・作品写真と共に 登り窯初窯記念の萩焼「左馬の茶碗」を送っていただきました。本当にうれしい もうまたとない素晴らしい経験でした。また、「たたら」製鉄炉とこじつけると、風の通り道の山際に据え付けられた窯はたたら縦型炉に近く、簡単に高温と還元雰囲気が作られることにびっくり、また大きさは違うが縄文人が煮炊きに使った焚き口と土器を置く窯にもそっくりと。



2011年 田中講平の萩 「翔 2011」 2011.1月

約1年をかけて自ら築造した田中講平手作りの登り窯が平成23年1月15日開窯
「翔」2011年の期待いっぱいの作品群が誕生しました



花活け「翔」 2011



田中講平作 作品5点 2011



左馬茶碗 陶房某月登り窯 初窯 2011.1.15.



白軸鬼萩茶碗 2011



花活け 2011



鬼萩茶碗 2011



田中講平作 作品5点 2011



左馬茶碗 陶房某月登り窯 初窯 2011.1.15.

陶房某月登り窯の初窯から生まれた「田中講平の萩 2011」 [1] 2011.1.15.



田中講平作 作品5点 2011

陶房某月登り窯の初窯から生まれた「田中講平の萩 2011」 [3] 2011.1.15.

萩焼の登り窯【概説】 インターネット検索にて

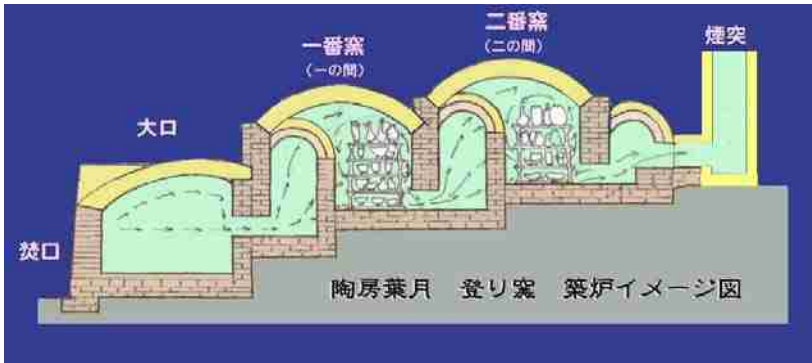
- 参考 1. 田中講平さんの登り窯築造
- 参考 2. 登り窯概説 インターネット検索より
- 参考 3. 萩焼と登り窯 インターネット検索より

参考 1. 田中講平さんの登り窯築造 田中講平さんのホームページより

【 田中講平さんの登り窯 築造過程の登り窯 築造経過の写真 2009.10月→2000.1.15. 】



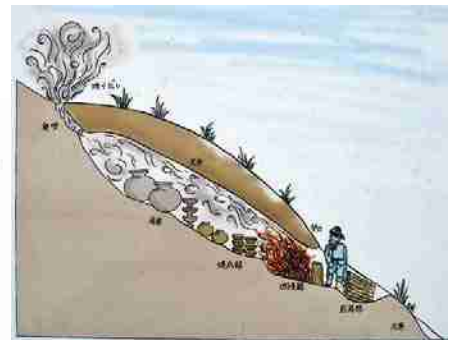
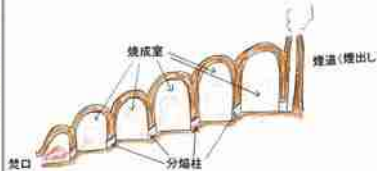
築造中の田中講平さん



参考 2. 登り窯概説 インターネットより採取



登り窯の一例



古代の登り窯

日本でもっとも古い窯は穴窯と呼ばれる山の斜面に穴を掘り、土で作った天井をかぶせた単室の小さな窯。この穴窯を改良して、丘陵斜面を利用して、幾つかの焼成室[窯]が連なるように築いた窯が登り窯。最も下方に“大口”とよばれる燃料を燃やす燃焼室があり、それに接続していくつもの焼成室(窯)が上方に連なっている。焼成室は、数室のものから多いものでは数十室にのぼるものもあります。熱が登って行く性質を利用して、大量の品を一度に焼き上げることができる。

窯焚きの最初に、一番下の大口から木材屑などの燃料を焚き始め、上方にある窯を含め、登り窯全体の予熱ができるので、窯を高温にまで高められる。予熱後、連なる窯の横側にあるそれぞれの窯口から火力の強い末の薪を窯の中に投げ入れ、さらに窯を高温にして作品を焚き上げる。

作品を焼く時の窯の温度は、約1000～1500度というかなりの高温が得られる。

また、大口の焚口を閉じて、空気の流れを遮断し、窯ごとに封鎖されている窯の焚口を開閉することで、窯の中の空気量を調節して窯の中の雰囲気を変化・還元性に調節してそれぞれ窯詰めされた作品を焚き上げることができる。

窯の焚口は小さく開け、焚口薪の投入量・投入回数の調整等による空気量を調整で、目的に合わせ、窯変に変化をつける技法もある。

燃料の薪には赤松の皮をむいて半年以上乾かしたものが用いられ、窯の数にもよりますが、3～4日焼き続ける。

このため、大量の窯詰め作品の準備が必要であるばかりでなく、大量の燃料そして数日つきっきりの窯焚き調整がいるなど大変なコストと労力があるため、最近ではガス窯・電気窯で雰囲気制御しつつ焼くことが多くなっているという。

但し、登り窯での「窯変の妙味」など登り窯でないと出せない「技」「味」があり、登り窯にこだわる陶芸作家もいる。

この登り窯「窯変の妙」は登り窯それぞれの個性であり、陶芸作家それぞれの技法と合わせ、陶芸作家それぞれの個性的な作品が生み出される。

参考 3. 萩焼と窯の技法 インターネット検索より

【 萩焼といっても千差万別 窯焚き技法と相まって数々の萩焼が生まれる 田中講平さんの萩より 】



かいらぎ

切り高台

御本手

萩焼といっても千差万別 窯焚き技法と相まって数々の萩焼が生まれる 田中講平さんの萩より

萩焼は山口県萩市一帯で焼かれる陶器で、古くから「一楽二萩三唐津」と謳われる。

萩焼の大きな特徴は、焼締まりの少ない柔らかな土味と、高い吸水性にあり、

吸水性が高いため、長年使っているうちに茶や酒が浸透し、茶碗の色彩が変化し、「萩の七化け」と呼ばれ愛でられている。

また 形や装飾の簡素さも特徴の一つで、ほとんどの場合、絵付けは行わず、胎土となる土の配合、釉薬のかけ具合、へら目などが、登り窯の作用「窯変」によって様々な表情を生みだすことを想定した上で、その魅力を活かすように作られる。

ごく一般には びわ色や柔らかいクリーム色を呈した焼き物であるが、その他に、御本手(俗にモミジやホシと呼ばれるもの)や梅花皮(カイラギ)といったものがある。御本手はもともと釉薬の欠点と言われていたピンホールを逆手にとって発色の特徴としたもの。カイラギは釉縮れや釉ヒビなどの不完全さを逆用したもの。

このような不完全さ・不均衡さの中に茶人たちが美しさや侘びさびといったものを見出し、それが萩焼の技法として根付いていった側面も見逃せない。

これらの萩焼の特徴・味を引き出し、萩焼の肌表情をつけるのが、「窯焚き技法」と「窯変」である。

萩焼では粗くて鉄分を含む見島土を鉄分の少ない大道の土に混ぜて素土として使う。それらの配合や焼き物素材の表面状態・釉・制作技法などが 登り窯の焚き上げ技法と相まって、焼き物に含まれる主に鉄分が酸化・還元の変化を引き起こし、萩焼特有の発色を起こす。

登り窯での作品焼き上げでは薪が完全燃焼するように、薪を投げ入れて煙が出てきたら薪を入れるのをやめる。これをくり返しながら高温に焼き上げる。

窯の中に空気（酸素）が充分足りていると薪は完全燃焼し、焼物の中にある酸素分は燃えずにそのまま残る。

鉄を含む焼物では、酸化で黄色や茶色っぽくなったりする。萩のびわ色とか言われるのがこの色である。

一方、薪をどんどん入れ、煙が出てても薪を入れ続けると、煙が窯の中に充満し、窯の中が酸欠状態になり、薪が不完全燃焼する。炎はちょっとでも燃えようとして焼物の中の酸素も燃やしてしまい、青黒色を帯びた還元色が出てくる。

これらの発色は焼き物に含まれる鉄分の量や表面や温度と窯の中の雰囲気の状態で大きく変化する。

この微妙な変化を求め、さらに釉の種類を変えたり、薪の太さや投入量を変えたりする。

その上、空気をよく入れ、高温で焼いた方がよく焼き締まるので、焼き締め方も調整する。

酸化で焼いて途中で還元に変えたり、還元を酸化に変えたり、中性という焼き方もある。

土の中に含まれている鉄分が窯変し、赤い色彩や斑点状の模様が現れる「御本手」という技法では

焼き終わった後に焼物が酸素を吸ってあの萩焼特有の模様が生まれる。

そんな色々な変化を技法として組み込み、それぞれの陶芸家独特の萩焼が生み出される。

【 参 考 】

1. 風来坊・Country Walk 萩焼の主原料土「大道士」の採取地 鑄銭司・大道を訪ねる 2009.6.6.
<http://buffalonas.com/mutsu/www/2009htm/walk6/0907daido00.htm>
2. インターネット「萩焼 登り窯」検索
3. 田中講平さんの home page 萩焼陶房「陶房葉月」
<http://www.k2.dion.ne.jp/~hazuki/>

Mine-2 梅雨の晴れ間 山口県美祢カルスト台地で 2011.5.24.-5.26.

美祢の山郷・水が張られた棚田・麦秋・バラの花

5月24日 西日本は梅雨入り

すっきりしない天候の中 5月24日-26日 駆け足で山口へ

春から初夏への郷の光景が新鮮 また バラが素晴らしい時でした



山口市 鳴滝ブリュワリーから山口の山並み 2011. 5. 24.



美祢/山口の峠道で 2011. 5. 24.



鳳翔山の峠より 山口市吉敷の郷 2011. 5. 24.



鳳翔山の峠より 山口市吉敷の郷 2011. 5. 24.



山口市吉敷の郷 2011. 5. 24.



美祿 秋吉台 カルスト道路で 2011. 6. 26.



美祿 秋吉台 カルスト道路で 2011. 6. 26.



山口県美祢 カルスト台地で 2011. 5. 26.



山口県美祢 カルスト台地で こんな光景も 2011. 5. 26.



山口県美祢 カルスト台地で 麦秋 2011. 5. 26.



山口県美祢 カルスト台地で 麦秋 2011. 5. 26.



カルスト台地田圃では 今度の収穫と田植えが同時進行
山口県美祢 2011. 5. 26.



お向かい黒田さんの庭 バラと春の花満開でした 2011. 5. 26.



お向かい黒田さんの庭 バラと春の花満開でした 2011. 5. 26.



お向かい黒田さんの庭 バラと春の花満開でした 2011. 5. 26.



山陽自動車道 福山SA ローズガーデンで 2011. 5. 26.



山陽自動車道 福山SA ローズガーデンで 2011. 5. 26.



山陽自動車道 福山SA ローズガーデンで 2011. 5. 26.

5月24日 西日本は梅雨入り

すっきりしない天候の中 5月24日-26日 駆け足で山口へ

春から初夏への郷の光景が新鮮 また バラが素晴らしい時でした



山口市 鳴滝ブリュワリーから山口の山並み 2011. 5. 24.

風来坊 Country Walk 総覧

2012.1.15. 作成

1. 里歩き・山歩き

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/pdfwalk/kazetop.htm>

風来坊 Country Walk 【I】 里歩き 1999.9.-2002.12.

1. 北のまほろば 津軽 1999.9.
2. 越中 花街道 奥美濃-五箇山-砺波平野 1999.5.
3. 中国錦州 「化石から 山口県美祢を思う」 2000.11.
4. 一足先に春を告げる南房総 2001.4.
5. 新緑の九州 霧島 韓国岳 2001.5.
6. 山口県 長門市 湯本温泉の記事 2001.5.
7. 花の四月 関東で Country Walk 2001.5.
8. 福井県 一乗谷 朝倉氏遺跡 2001.11.
9. 2002 京都の春 京大界限・大文字山 2002.3.
10. 源平の 青葉の笛 須磨寺門前に「卯の花」を訪ねる 2002.3.
11. 福島県 三春 天然記念物「滝桜」 2002.4.
12. 福島県 裏磐梯 残雪の五色沼 アルバム 2002.4.
13. 一度行きたかった草津温泉 風来坊 2002.4.
14. 田中講 平先生の新しい陶房葉月を訪ねて 2002.5.
15. 春 草色に輝く秋吉台 カルスト台地 Walk 2002.5.
16. 2002 夏 「ねぶた」と「ねぶた」 青森 Walk 2002.8.
17. 青森三内丸山遺跡 2002 秋 点描 2002.9.
18. 上毛三山 紅葉の妙義山の森を歩く 2002.11.
19. 奥会津の名勝 塔のへつり 2002.11.
20. 奥会津 館岩村 奥会津曲家集落を訪ねる 2002.11.
21. 白雪をいただく富士山 足柄山山塊 金時山 2002.12.

風来坊 Country Walk 【I】 山歩き 1999-2003.2

1. 上越国境 利根川の源頭 谷川岳 1999.8.
2. 尾瀬の秋 紅葉の尾瀬ヶ原 上越側 鳩町峠から会津側御池小屋へ 1999.10.
3. 夏の尾瀬 尾瀬沼・尾瀬ヶ原 2000.7.
4. 高山植物の宝庫 早池峰山 2000.6.
5. 津軽富士 岩木山 1999.9.
6. 春の霧島連峰 韓国岳 登山 2001.5.
7. 初夏 水芭蕉の尾瀬 探勝 2001.6.
8. 夏的那須連峰 茶臼岳-朝日岳-三本槍岳 縦走 2001.7.
9. 晩夏 吾妻連峰の主峰 一切経岳へ 2001.8.
10. 北上盆地の背にそびえる栗駒山 2001.9.
11. くろがね 鉄山 紅葉の安達太良山 2001.10.
12. 以北の最高峰 日光白根山〔奥白根山〕 2001.10.

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| 13. 冬の陣馬山 ハイク 陣馬山-小仏峠 | 2002. 2. |
| 14. 福島県 裏磐梯 残雪の五色沼 アルバム | 2002. 4. |
| 15. 残雪の草津白根と殺生河原からの展望 | 2002. 4. |
| 16. 出羽 花の月山 WALK 高山植物が咲き乱れる山上の縦走路 | 2002. 7. |
| 17. 八甲田連峰 WALK 八甲田連峰縦走と草紅葉の毛無岱 | 2002. 9. |
| 18. 上毛三山 紅葉の妙義山の森を歩く | 2002. 11. |
| 19. 白雪をいただく富士山 足柄 金時山ハイク | 2002. 12. |

風来坊 Country Walk 【2】 山歩き・里歩き 2003

- | | |
|---|-----------|
| 1. 温かい冬の週末 柏ひだまり Walk | 2003. 1. |
| 2. 東京・千葉界限 桜散策 Walk 千鳥ヶ淵・谷中から上野・千葉佐倉 | 2003. 4. |
| 3. 鎌掛(かいがけ)石楠花谷 Walk 天然記念物ホンシャクナゲの群落 滋賀県日野町 | 2003. 4. |
| 4. 五月の連休 山口【1】秋吉台カルスト | 2003. 5. |
| 5. 五月の連休 山口【2】由宇温泉へ白壁の街「柳井」・本四のモデル大島 大橋を渡って | 2003. 5. |
| 6. 福島県 土湯峠湿原 「赤湯」温泉を訪ねて | 2003. 5. |
| 7. パオバブの木の下で 国立民族学博物館 特別展「西アフリカ おはなし村」open | 2003. 7. |
| 8. 「マリ国立民族舞踊団による音楽とおどり」 パオバブの木の下でみんな踊って | 2003. 8. |
| 9. 鉄のモニュメント 大阪万博 お祭り広場 大屋根 万博記念公園 点描 | 2003. 8. |
| 10. 「久しぶりのアメリカ」で 風来坊 | 2003. 9. |
| 11. 萩焼 田中講平先生の萩焼工房「陶房葉月」を山口市吉敷を訪ねて | 2003. 10. |
| 12. 鉄のモニュメント 北海道開拓百年記念塔 | 2003. 10. |

風来坊 Country Walk 【3】 山歩き・里歩き 2004.

■ Country Walk III 里歩き 2004

- | | |
|---|-----------|
| 1. 信州茅野 八ヶ岳山麓に縄文のビーナスを訪ねて | 2003. 12. |
| 2. 網走 流氷探訪 アルバム | 2004. 3. |
| 3. 春風にそよぐ「かたくりの花」 兵庫県三日月町弦谷 自生地で | 2004. 3. |
| 4. エンジョイ イタリア
古い都・街並みを訪ねて
エンジョイイタリア イタリア旅行記(詳細版) | 2004. 5. |
| 5. 信州 戸隠山の自然の中で 森林浴 | 2004. 6. |
| 6. 花の北海道 【1】礼文・富良野 美瑛・天塩 アルバム | 2004. 8. |
| 7. 花の北海道 【2】2004 夏 花の北海道 Walk [礼文島・美瑛の丘・天塩/宗谷] | 2004. 8. |
| 8. 2004 秋点描 関西で | 2004. 10. |
| 9. 九州 縄文・古代を訪ねる旅
a. 熊本県 菊池川流域の装飾古墳群
b. 鹿児島県 上野原縄文遺跡
c. 宮崎県 記紀神話の西都原古墳群 | 2004. 10. |
| 10. 六甲の東端 こどもの頃から慣れ親しんだ甲山 Walk | 2004. 12. |
| 11. 神戸便り Country Walk 11&12月 | 2004. 12. |

■ Country Walk III 山歩き 2004

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 北摂の山 武田尾 大峰山へ 桜とツツジを訪ねて | 2004. 4. |
| 2. 吉野山 初秋 ハイキング | 2004. 10. |

風来坊 Country Walk 【4】 山歩き・里歩き 2005.

■ Country Walk IV 里歩き 2005

1. 北近江 安曇 川・マキノ 雪の山郷 country Walk 2005. 1.
2. 須磨便り「早春の須磨 梅見ハイク」 2005. 2.
3. 北摂のポンポン山 福寿草ハイク 2005. 3.
4. 桜アルバム「室生古道に満開の桜の古木を訪ねて」 2005. 4.
5. 早春と冬が入り混じる「北の大地」を風来坊 2005. 4.
釧路湿原と鶴・駒ヶ岳山麓・北の縄文・釧網線
6. 糸魚川・青海に縄文のヒスイ原石の谷を訪ねる 2005. 5.
7. 広島県吉和 緑の高原のウツドワン美術館 2005. 6.
8. 但馬 天日槍の国の歴史とコウノトリを訪ねて 2005. 6.
9. 越中八尾「風の盆」を訪ねて 写真アルバム 2005. 9.
10. 四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk 2005. 11.
大断層帯にそびえる赤石山系と銅山の山郷 別子山村
11. 晩秋から初冬に移り行く函館散策 写真アルバム 2005. 11.
夜景と美しい教会群 函館の街 Walk
12. 写真アルバム 瀬戸内海誕生の歴史を語る黄島 2005. 11.
岡山県牛窓海岸 黄島・黒島

■ Country Walk IV 山歩き 2005

1. 山岳宗教の歴史を秘めた九州の霊峰「英彦山」 2005. 6.
2. 写真アルバム 若狭・北近江国境の赤坂山・三国山Walk 2005. 8.
3. 写真アルバム 薩摩富士 開聞岳 2005. 10.

風来坊 Country Walk 【5】 山歩き・里歩き 2006.

■ Country Walk 里歩き 2006.

1. 2006 年 春 花の淡路島を訪ねて 2006. 4.
春の花 菜の花・チューリップ・三色スミレ
2. 「ひとつたりとも おろそかにできない命」 不戦の道を探って 2006. 8.
広島平 和の祈り・平和行進 2006 に参加
3. 2006 年夏 瀬戸内海遠望 山や海峡から瀬戸内海はどこまでみとおせるのか・・・ 2006. 8.
4. 写真アルバム 水田耕作・鉄・倭国 弥生の時代を作った渡来人たち 2006. 10
北部九州 魏志倭人伝の世界 杵岐・筑前・筑後の遺跡を訪ねて
5. 甲州・信州国境 八ヶ岳山麓に縄文遺跡を訪ねて 2006. 10.
「縄文人は山を見晴らす素晴らしい高原に住んでいた」
 1. 縄文の集落がそっくり 見つかった茅ヶ岳山麓 北杜市梅ノ木縄文集落遺跡
 2. 初秋 白樺が美しい紅葉し始めた 八ヶ岳清里の朝 清泉寮に泊まって
 3. 縄文の黒曜石原産地遺跡 長和市星屑峠に縄文の黒曜石鉾山を訪ねる
黒曜石を日本各地に配っていた信州 霧ヶ峰・中山峠

■ 風来坊 Country Walk 山歩き 2006

1. 蝦夷の雄「アテルイ」の足跡京都東山 陽だまりハイク 2006. 2. 9.
「清水寺・將軍塚」と 永観堂「みかえり阿弥陀仏」を訪ねて
2. 北摂連山の「キリシタンの里 千提寺」Country Walk と「マリア十五原義図」展 2006. 2.
3. 芦屋市弥生の高地性集落「会下山遺跡」からロックガーデンへ ハイキング 2006. 7.

風来坊 Country Walk 【6】 山歩き・里歩き 2007.

■ Country Walk 里歩き 2007.

1. 神戸の春 2007 写真アルバム 須磨山上満開の梅と明石林崎漁港のいかなご漁 2007. 3. 1.
2. 写真アルバム 2007 年春 櫻の便り 2007. 4. 15.
 - 山梨県北杜市 の樹齢 2000 年 神代桜と清里から見る春の南アルプス・ハヶ岳
 - 山口県美祢 市街を流れる厚狭川の桜 美祢の Y さんからメールで送っていただきました
 - 木津川上流 笠置の桜と沈下橋
3. 写真アルバム 「2007 年 5 月 新緑の野山で」 2007. 6. 1.
 - 滋賀県日野町鎌掛 石楠花谷
 - 新緑の里山 大和川 亀の瀬・龍田山
 - 大阪府二上山周辺で
 - 神戸 北野の市街地 旧水源地のツツジ
 - 葛城山の南斜面 深紅の花を敷きつめる山ツツジ
 - 新潟県 弥彦山から見る越後平野
4. 鳴門 大塚美術館に西洋美術 2000 年の陶板画を訪ねる 2007. 7. 16.

バチカン システィーナ礼拝堂の天井画 完全復元 祝別式に参加
5. 信州の縄文を訪ねる旅 2007. 9. 5. & 9. 6.
 1. 不思議な人体文縄文土器が出土した伊那谷の北部 南箕輪村 久保上ノ平遺跡
 2. 縄文中期研究の先駆けとなった縄文集落 平出縄文集落遺跡
 3. 信州 長和町 黒曜石原産地遺跡 縄文の黒曜石鉈山「星糞峠」
6. 鉄のモニュメント 2007. 9. 10.

長良川にかかる現存最古の近代吊橋 「美濃橋」(重要文化財) 岐阜県美濃市
7. 2007 年 秋 点描 10 月 11 月.
 - 初秋の西播磨の山郷 一面ススキが覆いつくす 砥峰高原 2007. 10. 4.
 - 奥出雲雲南市掛合町へ 松江道の工事現場から 次々と製鉄遺跡が出土 2007. 10. 13.
 - 久しぶりに夜の船で四国 松山へ 2007. 10. 26. -28.
 - 山口県美祢市の夜明けの朝霧 2007. 11. 9.
 - 神戸でも 今 紅葉の真っ最中 2007. 11. 26.

■ 風来坊 Country Walk 山歩き 2007

1. 日本三 彦山の一つ 越後 弥彦山 Walk 2007. 5. 16.

古代鉄の国「越」 弥彦山に鍛冶神の痕跡を探して
2. 紀ノ川のランドマーク 紀州富士「龍門山」に磁石を訪ねて Walk 2007. 7. 24.

風来坊 Country Walk 【VII】 山歩き・里歩き 2008.

■ Country Walk 里歩き 2008.

1. 南ドイツ クリスマス ツア 見て歩き 2008. 12. 4. -12. 10.

ドイツ 中世の町並みと 2007 年クリスマス市を楽しみました (pdf file)
2. 2008 神戸陽だまりハイク【写真アルバム】神戸のランドマーク「錨山」・「市章山」に登る 2008. 2. 14.
3. 【写真アルバム】春まじか 早春の南淡路 立川水仙郷と梅満開の由良・生石岬 2008. 2. 15.
4. 東大寺のお水取り「おたいまつ」 2008 年 3 月 8 日夕 2008. 3. 8.

立ち寄りたかった故河島英吾さんゆかりの喫茶「TEN. TEN CAFE」にも立ち寄れました
5. 越前と美濃を結ぶ街道 未完に終わった越美北線・越美南線 越美北線の終点 九頭竜湖駅へ行く 2008. 3. 25.

九頭竜川に沿って福井県の名峰日本百名山 越前大野盆地の南にそびえる荒島岳

6. 2008 春 桜 アルバム 2008. 4. 5. -4. 13.
1. 神戸の桜 東須磨 妙法寺川堤の桜 2008. 4 . 5.
 2. 奈良県大宇陀「又兵衛桜」と室生寺・長谷寺の桜 Walk 2008. 4. 8.
 3. 岡山県真庭市「醍醐桜」 和鉄の道に咲いて 1000 年 2008. 4. 13.
 4. 北播磨 三日月町 佐用川沿いの桜 2008. 4. 13.
 5. 山口県美祢 N.Y. さんからの桜便り 2008. 4. 7.
美祢桜山の桜に遊ぶ めじろ と 岩国錦帯橋の桜
 6. 山梨県甲府の N さんからの桜便り 2008. 4. 13.
素晴らしいと桜並木の富士山
7. 新緑の里山をめぐって 日本 6 古窯の一つ 陶芸の郷 立杭へ 2008. 4. 16.
【写真アルバム】2008 新緑の里山をめぐって 陶芸の郷 立杭へ
8. Country Walk 巨大草食恐竜「丹波竜」を訪ねる 丹波市山南町上滝 2008. 5. 15.
9. 初夏の花 満開のスイスアルプス ハイキング アルバム 2008. 6. 29. - 7. 8.
1. 雪が消えて アルプスの山々には 初夏の花が満開
 2. 「エーデルワイスの花ほほ笑みて 鋭き岩肌 金色に照り
 3. スイス アルプスは 『鉄のモニュメント』 『鉄の郷』
10. 夏の朝の清涼をたっぷり 「京朝顔」 京都府立植物園の「朝顔展」 2008. 8. 4.
11. 【写真アルバム】秋の風物詩 黄金色の畦を飾る 赤・黄・白三色の彼岸花 2008. 9. 22.
彼岸花の郷 播磨 多可町 間子集落 (PDF File)
12. 「今 GPS Logger が面白い」 GPS Logger を腰に須磨 Walk 2008. 10. 10.
13. 【写真アルバム】愛宕山 (924m) 紅葉 Walk 2008. 11. 15.
京都市最高峰 火伏せの神 愛宕神社が鎮座する霊山
- 番外 青森・八戸 縄文の郷 「是川」 縄文文化を代表する是川遺跡・風張遺跡を訪ねる 2008. 10. 30.
- 縄文漆の素晴らしい文化を咲かせた縄文晩期の是川中居遺跡
 - 墓域のある広場を環状に取り囲む住居群 縄文後期の環状集落 風張遺跡
- 風来坊 Country Walk 【8】 山歩き・里歩き 2009.
- Country Walk 里歩き 2009.
1. 2月陽だまりハイク 工都 尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk 2009. 2. 4.
1. 工都尼崎 を支える「尼崎港閘門（尼ロック）」Walk
2. 尼崎港閘門・尼ロック 解説 （インターネットより）
 2. 謎の古代石造物・石の宝殿 と竜山石を訪ねて 2009. 2. 27.
古代からの石切りの郷 高砂市「生石（おおしこ）」Walk
 3. 【写真アルバム】 東近江 陽だまり walk 2009. 3. 15.
縄文のウッドサークル 能登川正楽寺遺跡と近江八幡 左義長祭りを訪ねる
 4. 【写真アルバム】 西播磨佐用 たたらに咲く「カタクリと一本桜」を訪ねる 2009. 3. 31.
兵庫県佐用町 [旧三日月町 弦谷 & 旧南光町徳久・漆畑]
 5. 【写真アルバム】 ほのぼの鉄道 福井 えちぜん鉄道と雪を戴く白山連峰 2009. 4. 3.
参考 弥生後期から古墳時代にかけて 福井平野は鉄の先進地
 6. 【写真アルバム】 樹齢 1500 余年 岐阜県揖斐川 根尾谷に咲く「淡墨桜」 2009. 4. 8
 7. 【写真アルバム】 関西のツツジの名所 三室戸寺を訪ねる 2009. 5. 5
 8. 【写真アルバム】 摂津／播磨国境の証し？ 白川峠夫婦岩 裏山の白川峠に磐座を訪ねる 2009. 5. 20.
古代 西国からの出入口 須磨 摂津・播磨の国境は山越か？ その証しかも ??
 9. 【スライド】 六甲高山植物園 「初夏 6 月 高山植物 花 Walk 」 2009. 6. 8

10. **【写真アルバム】** 「ひまわりの夏 2009」 2009. 7. 31.
 たたらの里 西播磨佐用町西下野に咲くひまわり
11. **【写真アルバム】** 江戸時代にタイムスリップした宗教都市の町並み「寺内町 富田林」 2009. 8. 15.
12. **【スライド】** 伏台杉〔芦生杉〕の群生地 京北町 片波川源流 2009. 9. 14
 京都北山 桂川・由良川の源流地帯に屋久杉クラスの巨木の群生地がある
13. 初秋の青森・秋田風来坊 【1】 2009. 9. 4-7
 青森 初秋の風物詩 岩木高原「嶽キミ」Walk と三内丸山遺跡「縄文のお月見」
 1. 青森初秋の風物詩岩木高原「嶽キミ」Walk 2009. 9. 4. & 9. 5. 朝
 2. 三内丸山縄文遺跡「縄文のお月見」 2009. 9. 5.
14. 初秋の青森・秋田風来坊 【2】 2009. 9. 6-7
 秋田県中央 マタギの里「森吉山」Walk と 縄文の環状列石 鷹巣・伊勢堂岱遺跡再訪
 1. マタギの里 阿仁 リンドウの花満開の森吉山ハイク 2009. 9. 6
 2. 鷹巣 縄文の環状列石群 伊勢堂岱遺跡 再訪 2009. 9. 7
15. **【写真アルバム】** 2009 年秋点描 コスモスから紅葉へ 2009. 10.
16. **【スライド】** 2009 年秋 京都 紅葉ライトアップ 紅葉 Walk 2009. 11. 15.

風来坊 Country Walk 【9】 里歩き・山歩き 2010

1. 西播磨 歴史の町に春を訪ねる 西播磨綾部山梅林と江戸の町並みが残る坂越港
 ● 菜の花と梅満開の綾部山観梅 walk
 ● 綾部山 39 号墳を訪ねる 「大和・阿波・讃岐・播磨」の連合を示す播磨の重要な古墳
 ● 古代秦氏の播磨進出地 港町「坂越」walk
 赤穂市坂越西播磨名産「牡蠣」& 古い港の町並みが残る坂越
 ● 西播磨 歴史の町に春を訪ねる まとめ
2. **【写真アルバム】** 京都御所と植物園に満開の桜を訪ねる
 ● 京都御所の桜
 ● 植物園の桜
 ● 久しぶりに見た重文近代建築 京都府庁&レンガのアグネス教会
3. **【写真アルバム】** 春の妖精 カタクリの花 兵庫県播磨 佐用町 2010.4.8.
4. **【写真アルバム】** 草木萌ゆ 春の里山風景 神戸北 丹生山系を越える国道 428 号 2010.4.19.
5. 春 石楠花と新緑の綿向山山麓 滋賀県東近江 日野町 walk 2010.5.2.
 1. 天然記念物 鎌掛谷のホンシャクナゲ 満開の群生地を訪ねる
 2. 鎌掛峠を越えて綿向山へ 綿向山山麓 Walk
 3. 馬見岡綿向神社 日野祭(宵山)
 参考 **【Country Walk】** 鎌掛 石楠花谷 Walk 滋賀県日野町 2003.4.
6. **【スライド】** 2010 京都 葵祭 2010.5.15.
 1. 葵祭の名の由来となった植物「ふたば葵」
 2. 葵 祭 walk 御所から下鴨神社へ向かう本列(男列)と斎王代に従う斎王代列(女列)
7. **【スライド】** 春から初夏へ 花 Walk 六甲高山植物園 2010.6.1.
 幻のヒマラヤの青いケシ・高山植物の女王「コマクサ」
8. 平城遷都 1300 年祭で賑わう奈良 Walk 大遣唐使展・若草山・平城宮大極殿 2010.6.11.
 1. 平安遷都 1300 年記念大遣唐使展
 2. 大和平野の素晴らしい展望台 若草山 walk
 3. 平城遷都 1300 年祭 平城宮跡 復元朱雀門と大極殿

9. 【写真アルバム】 ひまわりの夏 西播磨佐用 旧南光町林崎・漆野のひまわり畑で 2010.7.20.
10. 京都堀川 京の七夕 2010. 8.3.
11. 【写真アルバム】 涼を求めて 布引の滝・ハーブ園から摩耶山掬星台へ 2010.8.6.
12. 【写真アルバム】 花で追う2010年の秋 小さい秋 みつけた
1. 山田錦の郷 三木市吉川 灘の酒蔵の旗がはためく実りの秋 2010.9.6.
 2. 新しい兵庫の蕎麦の郷 加古川市志方町野尻・小野市小野町 2010.10.1.
 3. 稲穂が揺れる田圃の畔に彼岸花 加古川市志方町で 2010.10.1.
 4. コスモスの里 加古川市志方町広尾西・東中コスモス畑 2010.10.13.
 5. 一足早い渓谷の紅葉 信州蓼科中央高原「横谷渓谷」 2010.10.17.
13. 【写真アルバム】 縄文を代表する国宝「火焰土器」新潟県十日町市 笹山遺跡を訪ねる 2010.11.17.

風来坊 Country Walk【10】 里歩き・山歩き 2011

1. 早春の須磨アルプス 馬の背を久しぶりに歩きました 2011.2.23.
横尾から馬の背への谷筋 旧道直登ルートを見つけました
2. 2011.春 西神戸で春を探す 春を告げるカタクリ・雪割草・寒葵・土筆 2011.3.28.
みんながみんな「東北頑張れ」「日本頑張れ」と
3. 2011 年春の訪れを告げるカタクリの花古代鉄関連地の山蔭に咲く花を今年も訪ねました

 1. 西播磨 佐用町 弦谷のカタクリ 2011.4.5.
 2. 西神戸 神出 雌岡山のカタクリ 2011.4.11.

- 4 春の六甲高山植物園新緑の森をめぐりながら花の説明に耳を傾ける 2011.4.29.
5. 春から初夏へ 里山の花を訪ねる Walk 2011.5.8. - 5.26.
1. 六甲森林植物園 石楠花 新緑の六甲森林植物園の石楠花谷 2011.5.8.
2. 丹波・兵庫氷上盆地 田植えが始まった郷・レンゲ畑・九尺の藤 2011.5.14.
3. 梅雨の晴れ間 山口県美祢カルスト台地 2011.5.24.-5.26.
美祢の山郷・水が張られた棚田・麦秋・バラの花
- 6 ひまわりの夏 2011 西播磨佐用 南光町林崎のひまわり 2011.7.23.
- 7 京都に夏を告げる祇園祭 2011 2011.7.16. & 7.17
1. 祇園祭宵山 提灯に灯がともり祇園囃子が響く鉾町 walk
2. 山鉾巡行 巡行のハイライト 鉾の辻回し
- 8 神戸の夏を歩く 2011 これからが夏本番

 1. 六甲高山植物園 夏の高山植物 2011.6.15.
 2. 布引の滝 2011.7.6.
 3. 高校野球 地区大会を観戦 2011.7.12.& 7.15.
 4. 梅雨が明けた入道雲 須磨で 2011.7.14.

- 9 2011 年夏 佐川美術館「セガンティーニ」展と湖面に広がる蓮の花 2011.8.11
琵琶湖 守山佐川美術館 & 草津水生植物公園 蓮の群生地

 1. アルプスの画家 セガンティーニ展 佐川美術館
- 光と山 - GiovanniSegantini-Light and Mountains-
 2. 佐川美術館 彫刻の佐藤忠良館 陶芸の楽吉左衛門館 日本画平山郁夫館
 3. 湖面に広がる満開の蓮の花 (草津水生植物公園 蓮群生地)

参考 2008 年の夏 スイスの旅より

セガンティーニが住んだサンモリッツ周辺 & ツェルマツト周辺の山郷の風景

- | | | |
|-----|--|-------------|
| 10 | 真っ青な空にもくもくと入道雲 神戸の夏 2011
西神戸 鶴越の奥にそびえる菊水山からの大阪湾の眺望 | 2011.8.8. |
| 11. | 播磨多可町に秋を訪ねる 彼岸花の里&播磨の最高峰千ヶ峰登山
1. 彼岸花の里 多可町 2. 三谷登山口より千ヶ峰に登る | 2011.9.27. |
| 12. | 東播磨 加古川西岸の丘陵地 加古川市志方に秋を訪ねる【2】
播磨の小さい秋 コスモスの郷 加古川市志方町で | 2011.10.17. |
| 13. | 2011 年秋 紅葉 walk 紅葉の名所 京都西山 長岡京市 粟生の光明寺 | |

2. 山口・美祢・長門の四季

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/pdfwalk/sikiminetop.htm>

美祢・長門の四季【1】1998.-2003.

- | | | |
|-----|-----------------------------------|-----------|
| 1. | オニックス・大理石と花の街 美祢市 | 1998. 1. |
| 2. | 土井が浜弥生遺跡と人類学ミュージアム 土井が浜弥生パーク | 1999. 5. |
| 3. | 萩焼のふるさと 陶芸の里「長門深川」 | 1998. 1. |
| 4. | 日本名水百選 別府弁天池湧水 秋吉カルスト台地の湧水 | 1997. 1. |
| 5. | 初夏の草花 黒田さん宅の素晴らしいガーデニング | 1999. 5. |
| 6. | 美祢線の夏 於福駅付近 たたら山 花尾山をバックに走るワンマーカー | 1998. 8. |
| 7. | 美祢夏便り 大理石シンポジウム ファイナーレ | 1998. 8. |
| 8. | 美祢・長門の秋の風物詩 1 秋芳なし | 1998. 9. |
| 9. | 美祢・長門の秋の風物詩 2 田のあぜの彼岸花 | 1998. 9. |
| 10. | 山口県美祢・秋芳町の境にある河原上たたら製鉄遺跡 | 1996. 10. |
| 11. | 第 15 回日本陶芸展 陶芸作家 田中講平先生 連続入選 | 1999. 6. |
| 12. | 山口県美祢市に住んで 5 年 | 1998. 4. |
| 13. | 西長門角島の夕暮れ & 秋芳 白糸の滝 | 2001. 1. |
| 14. | 山口市吉敷に田中講平先生の新しい陶房葉月を訪ねて | 2002. 5. |
| 15. | 春 草色に輝く秋吉台 カルスト台地 Walk | 2002. 5. |
| 16. | 2002 年秋 霧の中の美祢と小野田の銘菓 最中「セメンダル」 | 2002. 10. |

山口・美祢・長門の四季【2】2004

- | | | |
|----|--|-----------------------|
| 1. | 山口県角島 浜木綿の花が咲く浜と角島大橋 | 2004. 7. |
| 2. | 萩焼 陶房葉月 田中講平先生の作品 田中講平 広島作陶展より
萩焼 花器と花のコラボレーション
萩焼きにほたる舞う」 | 2004. 5.
2004. 10. |

山口・美祢・長門の四季【3】2005

- | | | |
|----|---|-----------|
| 1. | 田中講平さんの素晴らしい作品展示館 「GALLERY HAZUKI」を訪れて
オールカラー鋼板の斬新な建物に感激 | 2005. 10. |
| 2. | 久々の下関で おもしろかった下関唐戸市場 2 題 | 2005. 10 |

山口・美祢・長門の四季【4】2006.

- | | | |
|----|---|-----------|
| 1. | 6 月の山口に広がる田園風景 山口吉敷の里と油谷半島の棚田 | 2006. 6. |
| 2. | 写真アルバム山口・長門の秋 2006 美祢の朝霧
1. 晩秋 美祢の朝霧 美祢市来福台で | 2006. 11. |

2. 秋芳町から山口へ 秋吉カルスト台地 & 鳳翔山 山麓で
● 山口吉敷の郷 赤田神社の紅葉 ● 秋芳町 別府弁天池
3. 萩で 国民文化祭 陶芸展と萩の街
4. 津和野の秋

山口・美祢・長門の四季【5】2007

1. 美祢 市街を流れる厚狭川の桜 2007. 4. 15.
美祢のYさんからメールで送っていただきました
2. 久しぶりに童謡詩人「金子みすず」の街 長門市仙崎を訪ねました 2007. 6. 29.
3. 写真アルバム 防府 阿弥陀寺のあじさい 2007. 6. 12.
4. 写真アルバム 山口 県油谷半島 棚田の夕景 東後田の6月 2007. 7. 11.
美祢市のYさんからの写真メール

山口・美祢・長門の四季【6】2008

1. 山口 美祢からの便り 2008. 3. 12.
復元された古代の円筒炉で 銅製錬実験が行われました
奈良の大仏の採銅所 古代の長登銅山遺跡のイベント
2. 美祢 N.Y.さん からの桜便り 2008. 4. 7.
美祢桜山の桜に遊ぶ めじろ と 岩国錦帯橋の桜
3. 日本最古の銅山 奈良の大仏の銅を産出した「長登銅山」を訪ねて 2008. 6. 10.
 1. 日本最古の銅山 奈良の大仏の銅を産出した「長登銅山」概要
 2. 「長登銅山」と奈良の大仏 長登銅山の変遷と日本国内銅生産事情概説
 3. 日本最古の銅山 奈良の大仏の銅を産出した「長登銅山」Walk
 4. 長登銅山の銅鉱床・銅鉱石の変遷と銅製錬技術
銅の製錬も 鉄と同じく 一筋縄ではなかった
 5. 東大寺大仏と 重源
東大寺大仏殿の焼失後 山口県佐波川上流の山 徳地の木材で再建された 山口市徳地町
4. 【写真アルバム】 佐々木小次郎/宮本武蔵血統の場 下関海峡 巖流島 2008. 6. 7

山口・美祢・長門の四季【7】2009.

1. 【写真アルバム】 霧雨に煙る美祢の6月 2009.6.5.
2. 萩萩焼の主原料土「大道土」の採取地 鑄銭司・大道を訪ねる 2009.6.6.

山口・美祢・長門の四季【8】2010

■ 美祢・長門の四季 2010

1. 美祢市於福に店内に野菜生産工場がある野菜レストラン誕生 美祢も新しい街の息吹が・・・ 2010.8.2.

山口・美祢・長門の四季【9】2011

1. 初窯・本焚きの見学記 2011.1.15.
山口市吉敷 萩焼陶芸家 田中講平さん自作の登り窯
田中講平さん自作の萩焼登り窯の初窯・本焚きの一日
2. 梅雨の晴れ間 山口県美祢カルスト台地で 2011.5.24.-5.26.
美祢の山郷・水が張られた棚田・麦秋・バラの花

